S	A	A
C	1	2
画面	タイトルからＢＬへ、 その後、テロップＦ・Ｉ 昭和三十一年（１９５６年） 第二次世界大戦（太平洋戦争）の敗戦から十年が経ち、人々の懸命な努力によって、日本は著しい復興を遂げた。 「もはや戦後ではない」と言われたこの年、テレビや洗濯機も少しずつ一般家庭に普及しはじめ、その後に続く豊かな社会への第一歩が確実に踏み出された年であった。 この映画は、そんな時代の東京・下町のとある家庭と小学校を舞台にした物語である。 Ｆ・Ｏ	艦隊に接近する特攻機群の音がＦＩ。 水平飛行から突入へ。
音声	（ＳＥ・・・ブーン） （ＳＥ・・・ウィーン、ウィーン）	

	A
	3
	戦闘機の無気味な音。 特攻機が撃たれる音。 何かわからないぼんやりしたものがゆっくりたゆたっている。 次第にそこが砂浜の波打ち際があることがわかる。 一匹のカニが歩いてくる。 日本兵（正樹）の腕が見える。 カニは手の上を何もないように乗り越えてゆく。
※突入する特攻機の音 （ＳＥ・・・ポンッ、ポンッ、ダダダダッ、 ※軍艦の高角砲および高角機関銃からの対空砲火の音 （ＳＥ：ヴィーン） （ＳＥ：ダッダッダッダ） ※特攻機が敵艦に向かう音と迎撃する対空砲火の音 （ＳＥ：ザザザザー・・・ザザザザー）	

A	4	死んでいるのか生きているのか わからない正樹。 波が打ち返すのみ。	
A	5	引いた正樹から ＰＡＮ、Ｔ・Ｂすると 壊れた戦闘機が見える。	
A	13	スピーカーから 玉音放送が聞こえている。	天皇の終戦宣言　「・・・・朕、よくこれを知る。 しかれども朕は、時運の赴く所、」
A	14	すすり泣く人々。	終戦宣言　「堪え難きを堪え、忍び難きを忍び、」
A	15	皇居前。 ひれ伏す人々。	終戦宣言　「もって万世の為に太平を開かんと欲す。」
A	16	戦後の東京。 焼け跡から物を拾っている人々。	（ＢＧＭ）リンゴの唄
A	17A	焼け野原。引き絵。	（ＢＧＭ）リンゴの唄
A	17B	焼け野原。少し寄った絵。	（ＢＧＭ）リンゴの唄
A	17C	焼け野原。少し寄った絵。	（ＢＧＭ）リンゴの唄
A	18	闇市に人々が群っている。	（ＢＧＭ）リンゴの唄Ｆ．Ｏ
A	19（あ）	永代橋。	（ＢＧＭ）東京キッドＦ．Ｉ

			「日本橋」行きの都電。 入れ替わるように「錦糸町」行きの都電が走っていく。
	19（い）		「橋」。 渡る都電。 抜かれる人々。 抜いていくバイク、トラック等。
A	19（う）	永代橋、切り替えし	
A	19（え）	停車場の看板。 「門前仲町」	
A	19（お）	都電車内。	
A	19（か）	すれ違う都電。	
A	19（き）	木場の材木街。	
A	19（く）	不動尊前。	
A	20	木場のあたりフカン。	（BGM）東京キッドF．O

			カメラ引いて行き、海が見える。 タイトルＦＩ。 ふるさと　ＪＡＰＡＮ
Ａ	２１	小学校正門前。 桜が散っている。 【テロップ】 昭和３１年　１９５６年　春	校長　（ＯＦＦ）「そんなわけで、新しい―」
Ａ	３０	小学校（校門前・外）。 ＰＡＮ　ＤＯＷＮすると 江東区立木場小学校の表札。	校長　（ＯＦＦ）「日本を築いていくのは、君たち ひとりひとりです。」
Ａ	３１	校内（外） 二宮金次郎像 一面に散る桜	校長　（ＯＦＦ）「なにくそという精神で、 勉強に、遊びに―」
Ａ	３２	校庭 朝礼台の上に校長先生。 その横に坂本理恵子先生もいる。	全力でぶつかってください。さて、今日 から本校に―」
Ａ	３３	校長先生からＰＡＮしていくと	校長　「素晴らしい先生をお迎えすることになりま

	坂本先生がいる。 した。」		A	34		
	自分の名前が呼ばれるのに反応して、居住まいを正す坂本。 校長　「坂本理恵子先生です。 坂本先生はこの3月に教育大をご卒業になりましたが、」	緊張気味の坂本。 校長　（ＯＦＦ）「実は声楽家になる力を充分お持ちの所を、君たちと一緒に勉強したり歌ったりしたい とのご意志で、本校に来られました。」	A	35	整列して話を聞く生徒達。 神妙な面持ち。 校長　（ＯＦＦ）「先生には音楽を担当していただきますが、年末には地区合唱大会もありますので特別のご指導をと思っています。」	A	36	坂本の方を向く校長。 校長　「また、6年4組の滝井先生が地区会議等でお忙しい時には、4組の授業も見てもらいます。」	A	37a	坂本、校長の方を見て軽く頷き、朝礼台の方へ歩き始める。 （緊張気味） 校長　（ＯＦＦ）「坂本先生、ごあいさつを。」	A	37a	坂本、台に上ってくる。 台の中央に来て正面に向き直る。	

	A	A	A	A	
	38	39	40	41	
校長は身を引いて場所を譲る。 坂本、ちょっと胸に手を当てて、 落ち着ける間があってから、 顔をあげて生徒たちの方を見る。	坂本の後ろ姿。	坂本明るく意志と覇気に満ちた表情で、話し始める。 生徒全員を見渡す。	6年4組の一番後ろ。 ゴンとひかるがいる。	ゴン、ひかるに訊ねる。	ひかるもわからない。 ハカセが得意げに説明する。
		坂本 「坂本理恵子です。 皆さんと一緒に一生懸命勉強したり歌ったりしたいと思います。 合唱大会の優勝目指して 頑張りましょう。」		ゴン 「おい、セイガクって何のことだ？」	ひかる 「・・・。」 ハカセ 「それは歌手のことだよ。」 ひかる・ゴン 「へぇ～っ。」 男の先生（ＯＦＦ）「それでは、これで朝礼終わります。 新一年生から順序良く教室に入りなさい。」

	A	42	男の先生の話は続いている。 列の前の方。 テル、ちょっと背伸びしながら。	
	A	43	男の先生の話は続いている。 アキラのＵＰ。	廊下を走ったりしないように」 男の先生（ＯＦＦ）「・・・・・・・・・。」 テル　「坂本先生、ベッピンだなあ。滝井先生なんて、ずっと休んでいればいいのに・・・・。」 男の先生（ＯＦＦ）「・・・・・・・・・・」 アキラ　「でも、４組の担任はやっぱり滝井先生なんだよなあ。」
	A	51	朝礼後の校庭。 誰もいない。 桜の花が散っている。	
	A	52	６年４組前の廊下。	
	A	53	６年４組（表札）。	（ＳＥ：チョークの音）
	A	54	教室内、黒板。 「宮永志津」と書き終えたところ。	（ＳＥ：チョークの音）
	A	55	志津、チョークを置いて 正面を向き直る。	滝井　「坂本先生に続いてもう一人、新人を紹介しよう。」

		志津、ペコリとお辞儀をする。	滝井 「宮永志津さんです。宮永はお父さんの仕事の関係で神戸―、みんな、神戸って知ってるよな。その神戸から東京に来たんだ。」
A	56	志津、自己紹介を始める。少し上気して、目がキラキラしている。	志津 「宮永志津です。私の長所は明るいこと、
A	57	興味深い表情で聞いている子供たち。	短所は気の強いことやって母に言われてます。」
A	58	ペコリと頭を下げる。坂本、皆の方を向いて。 志津はちょっと恥ずかしそう。	志津 「歌うのが好きなので、歌手か音楽の先生になるんが夢です。よろしくお願いします。」 坂本 「宮永さんはずっと歌とピアノを習っていたんですって。」 女子たち 「すご～い。」 「ピアノだって。」 「すごいねえ。」
A	59	志津に見入っているアキラからT・B。 ヨシオ、アキラの方に振り向き。	女子たち 「ザワザワ（アドリブ）。」 ヨシオ 「歌手かぁ・・・。美空ひばりの歌、やって欲しいな。」

	A	A
	61	62
アキラ、ハッとなって。 ヨシオ、何だ？というように アキラを見る。	田島ヤヨイが勢いよく手をあげる。 他の子供たちも同じように、 はやし立てる。 志津、ますます小さくなる。	滝井、子供たちをたしなめるように。 滝井、志津を促がす。 志津、返事をする。 教壇をまわるようにして、 前に歩いてくる。
アキラ　「え？」 ヨシオ　「・・・。」	ヤヨイ　「先生！宮永さんの歌、聞きたい！」 子供達　「聞きたい！」 子供達　「聞かせて！」 子供達　「やれ！、やれー！」	滝井　「わかった、わかった。そのうち坂本先生にお願いして、音楽の時間に歌ってもらいなさい。」 子供達（ＯＦＦ）「やったー！」 滝井　「それじゃあ宮永、自分の席に着いていいぞ。」 志津　「ハイ。」

A	63	アキラ、先生の声に反応。 ヨシオ、ニヤニヤしながら振り向き。 そこに志津がＩＮ。 アキラに軽く目礼。 アキラの隣に座ろうと、椅子をひく。 アキラ、志津を見る。	滝井　（ＯＦＦ）「柳沢。委員長なんだから、わからないことがあったら教えてやれ。」 アキラ　「ハ、ハイ。」 ヨシオ　「よう柳沢、色男！へっへへへ。」 アキラ　「う、うるさい！」
A	64	志津を見るアキラのＵＰ。 志津の椅子に座る動きを目で追う。	
A	65	椅子に座った状態から体を起こす志津。	
A	69	木場の堀の風景。 水面がキラキラ。	
A	70	空地。 スクラップが山積みされている。 金網越しに中を見る。	
A	71	空地の一角。	

	A
	73
地面は一面土と雑草。 工場の壁際に痩せた野良犬が うろついている。 犬、気配を感じて、パッと顔をあげ 振り向く。 犬、ダーッと手前に駆け出す。 後ろの板に、投げてきた石が当たり、 はねる。	スクラップの上にゴン。 まわりにハカセ、テル、アキラ、ヨ シオがいる。 ゴンが石を投げた姿勢から 手を下ろす。 大げさな芝居で物まねするヨシオ。 ゴンとテル、大ウケ。
犬　（ＳＥ：コーン） 「キャンキャン！」	ハカセ　「６年で先生が二人になるなんて、信じられないよ。」 ヨシオ　「オレはベッピン先生の方がいいな。」 テル　「でもさあ、宮永ってちょっとスカしてるよなあ。話し方も変だし。」 ヨシオ　「そんなことあらへんよ。」 ゴン　「クックック。」 テル　「似てる、似てる！」

		博識なハカセ。 皆、へーッという顔で聞いている。
A	74	ゴンがアキラをからかうように。 少し乗り出すようにして。
A	75	テル、手をひらひらしながら。
A	76	アキラ、照れ隠しでムッとして
A	77	テル、笑いながら。 ゴンが今度はテルに矛先を変える。 アキラ、ホッとする。 テル、焦って。

ハカセ	「関西弁だけど、神戸と大阪はちょっと違うんだよ。」
ゴン	「おいアキラ、どうなんだ。」
アキラ	「何が？」
ゴン	「お前、委員長なんだから、一回、宮永を泣かしてみろ。」
アキラ	「えーっ、委員長っていったって・・・、イヤだよそんなことは。」
テル	「アキラさあ、宮永に気があるからやれないんだろう。」
アキラ	「なんだよそれ！」
テル	「アレ、何おこってんだよ。」
アキラ	「お前こそ気があるからそんなことを言うんだろー。」
ゴン	「おいテル。じゃあお前が一回泣かせてみろ。」

		A	A	A
		78	79	80	81
	夕方。 柳沢家（外）。 家の中には明かりが灯っている。	柳沢家、居間。 卓袱台の上には質素な夕食。	卓袱台を囲み食事をする家族５人。 父以外はみんな正座をしている。 れい子、乗り出して茶碗を母に渡す。 母、茶碗を受け取りご飯をよそる。 和子は黙々と食べている。 アキラはガツガツ。 父はおかずに手を伸ばす。	和子、顔をあげ、アキラに話し掛ける。 アキラ、口をもぐもぐさせながら、和子を見る。
テル ４人	「えーっ、なんだよゴンちゃん。なんでオレにまわしてくるんだよ。」 「ハハハハハ。」 「クックック。」		れい子（ＯＦＦ）「おかわり！」	母 れい子 和子	「れい子、大丈夫？腹八分目だよ。食べすぎは万病の元。」 「たくさん食べて、はやくお兄ちゃんに追いつくんだもん。」 「アキラは今から勉強して、国立中学を受けなよ。 江東中は結構荒れているから、いい高校には行けないよ。」

			母、ご飯をよそった茶碗をれい子に渡しながら。 れい子、茶碗を受け取って、座って食べ始める。 和子、ちょっと考える風に。 アキラ、話が変わったので、佃煮に手を伸ばす。
A	82	父、手元の皿に箸を持っていきながら。	母 「そんなに悪いの？」
			和子 「うーん・・・、本当に悪いのは何人かなんだけど、あやつられる生徒がいるから、先生たちは振り回されてる・・・。」
			父 「和子の方こそ、高校へはどうするんだ？」
A	83	和子、少し下に目線を移して。	和子 「そりゃあ行きたいよ。」
		和子、顔をあげ。	和子 「でもさあ、高校へ行くのは、今のところクラスで１０人くらいだしねえ・・・。」
		母、アキラを見て。	和子 「受験の人には補習があるんで、先生からは出るように言われてるんだけど・・・。」
			母（ＯＮ～ＯＦＦ）「アキラ、杉浦くんは国立受けるんだろ？」

A	84	アキラ、顔をあげ、母の方を見る。 アキラ、目を落とし。	母　（ＯＦＦ）「お母さんから神田の日曜テストに一緒にって誘われてるのよ。」 アキラ　「・・・ハカセんとこは医者だしな。」
A	85	沈黙の間。 そこへお隣の青木さんの声。 反応する２人。	アキラ（ＯＦＦ）「ボクは江東中でいいよ・・・。」 母　「・・・・。」 和子　「・・・・。」 青木　（ＯＦＦ）「今晩は！柳沢さーん！」
A	86	玄関に、鍋を持って割烹着の青木さんが立っている。	青木　「イワシ煮たんだけど、もうご飯、済んだ？」
A	87	母、立ち上がりながら大声でこたえる。 廊下側へと抜けて行く。	母　「青木さーん、いつもすみませーん。」
A	88	なんとなく心許ない感じで、食事を続けるアキラ。	（会話アドリブで） 母　（ＯＦＦ）「まあまあ、本当にどうも・・・・。」 青木　（ＯＦＦ）「あんまりイキが良かったんで、つい沢山買っちゃったのよ。」 母　（ＯＦＦ）「あら、おいしそう」
A	89	学校（廊下）。 ６年４組、授業中。	

		ヨシオのたどたどしい朗読の声が聞こえている。	
A	90	ヨシオが緊張しながら朗読している。	ヨシオ　「モーツァルトは、オーストリアの名高い音楽家です。」 ヨシオ　「お父さんも同じ音楽家で、」
A	91	朗読するヨシオ。	ヨシオ　「腕は優れていたのですが、世渡りがまずく、いつも、」
A	92A	朗読を聞きながら、教科書を見ている坂本。 坂本、顔をあげ、ヨシオの方をみて。	ヨシオ（ＯＦＦ）「貧しい暮らしをしていました。」 坂本　「はい、そこまで。」
A	92B	ヨシオ、座る。 読み終わって、ホッと気が抜ける。 えっと、 気落ちして。 後ろで、しっかりしなよと見つめる	ヨシオ　「ふぅ～。」 坂本　（ＯＦＦ）「川畑くん。」 ヨシオ　「は、はいっ！」 坂本　（ＯＦＦ）「もう少ししっかり読めるようにね。」 ヨシオ　「はい・・・。」

	A	92C	坂本、志津の方を見て。	坂本 「では、次は、宮永さん。」
	A	93	名前を呼ばれて立ち上がる志津。 アキラ、ちらりと志津に目をやる。 志津、教科書を持ち、朗読を始める。 アキラも教科書に目を戻すが、 また、チラリ。	志津 「ハイ。」 （SE：ガタゴト） 志津 （ON～OFF）「モーツァルトは、まだ七つくらいの頃から、お父さんについて、方々の国々へ演奏旅行をして回らなければなりませんでした。」
	A	94	聞いているうちに更に見入るアキラ。	志津 （OFF）「少年の天才音楽家というモーツァルトの評判が、お父さんを助けていたのでした。」
	A	95	アキラから見た志津の横顔。	志津 「けれども小さいモーツァルトは、はなやかな場所で、何か不思議な生き物のようにもてはやされるのが、いやでなりませんでした。」
	A	96	後ろから見た絵。	志津 （背）「それでも、ただひとつの楽しみがありました。 それは、姉さんのマリアといつも一緒に行けることでした。」
	A	97	志津の朗読を聞く坂本。	志津 （OFF）「マリアはモーツァルトとは5つ違いの美しい少女でした。」

	A	98		志津、教科書を下ろし、顔をあげる。	坂本	「はい、そこまで。」
	A	99		志津、席に腰を下ろす。 まわりの生徒達、 感心したように志津を見る。 坂本は黒板の方へ向かいながら、 授業を続ける。	坂本 生徒ガヤ	（ＯＦＦ）「宮永さんは、本当に上手に読めましたね。」 「へぇ～。」
	A	100		志津、座る。 坂本、振り向く。 他の生徒たちはすぐに元に戻るが、 アキラだけまだ志津を見ている。	坂本	「それでは今読んでもらったところで、 『モーツァルトは何か不思議な生き物のように にもてはやされて』
	A	101A		志津を見ているアキラ。 先生のほうを向く。		嫌でなりませんでした』とありますが、なぜ、モーツァルトは
	A	101B		坂本、渡辺の方を見て。 渡辺君答える。	坂本 坂本 渡辺	「嫌だったのでしょうか？」 「えー、渡辺くん。渡辺稔くんー。」 「わ、わかりません。」

		ヨシオ、慌てて。	
A	101C	坂本、ちょっと残念。	
A	101D	アキラ、立ち上がる。 志津、アキラの方を見る。	坂本　（OFF）「では川畑くん。 モーツアルトの気持ちになって考えて。」 ヨシオ　「あ、オレ、ムリムリ。」 坂本　「そう・・・。」 坂本　「じゃあ、柳沢くん、どうかな？」 SE：ガタン アキラ　「はい。」 アキラ　「本当はお父さんの演奏会なのに、 まだ子供のモーツァルトの音楽のほうが評判になって、」 アキラ（OFF）「人々から興味本位で見られるのが嫌だったんだと アキラ　「思います。」 坂本　「はい、そのとおりですね。」 坂本　（OFF）「柳沢くんの説明はわかりやすかったですね。」 （SE：クラクションや呼び込みの声な
A	101E	答えるアキラ。	
A	101F	アキラを見る志津。	
A	101G	軽く頷く坂本。 満足そうに。	
A	101H	いすに座るアキラ。 ヨシオが「うんうん」と頷いている。 志津は感心したようにアキラを見ている。	
A	102	夕方の商店街。	

		A	A	A
		103	104	105A	105B
活気に満ちている。 カブや三輪トラック、自転車なども走っている。 アキラと、買い物カゴを持ったれい子が歩いているのが見える。	アキラとれい子。 アキラがれい子に何か話し掛けている。	電気屋の前に3・4人の人だかりができている。 れい子、テレビに気付き。 ダーッと駆け出すれい子。 ちょっと慌てるアキラ。	テレビの白黒画面には、当時人気の落語をやっている。	電気屋の前。 手前を人々が通り過ぎて行く。 ショーウインドウの中のテレビを見ている人が数人いる。 れい子が小走りで来て立ち止まり、
どが聞こえる)	(SE：クラクションや呼び込みの声などが聞こえる)	れい子　「あ、テレビだ！」 アキラ　「おい、れい子！」	(SE：テレビの音)	

	A	A
	106	107
テレビを見ようとする。	テレビの方を見て。 アキラ、すぐに歩き出す。 アキラを見て、 名残惜しくまたテレビを見るが、 やっぱり兄ちゃんが好きなれい子。 走ってアキラを追いかける。	アキラにれい子が追いつく。 れい子、元気よく。
	れい子　「お兄ちゃん、力道山のプロレス、ここのテレビで見たの？」 アキラ　「そうだよ。」 れい子　「テレビいいなあ。どうして電気屋さんにあるんだろう。」 アキラ　「れい子、行くぞ。」 人々　「ははははは！」 れい子　「待って、お兄ちゃん！」	れい子　「お兄ちゃん、何買うの？」 アキラ　「コロッケとアジフライだよ。」 れい子　「私、トンカツのほうがいいなあ。」 アキラ　「れい子、トンカツは一つ三十円もするんだぞ。」

			れい子
	A	108	アキラ
			トンカツひとつのお金で、コロッケはいくつ買えるかなぁ？」
	A	109	れい子
			えっ、となるれい子。ちょっと目を落として考える。
	A	110	アキラ
			ちょっとイタズラっぽく笑いながら。
	A	111	れい子
			くやしそうなれい子。
	A	112	店員
			揚げたての山盛りのコロッケとアジフライ。
	A	113	店員
			肉屋正面。店の前にフライヤーを置いてコロッケの実演販売をしている。
	A	114	店員
			店員、れい子に笑いかけながら

「コロッケは五円だー！」

「じゃあ、れい子。

「うーーーん？？」

「れい子、どうした？考えているのか？」

「うーーーーん。」

（ＯＦＦ）「いらっしゃい！」

「お兄ちゃん、何にするの？」

「えーと、コロッケとアジフライを５つずつ。」

「ちょっと待っててね。」

「いらっしゃい！」

		袋にコロッケを入れはじめる。 アキラ、財布からお金を出そうとしている。 親子連れ客。 店の奥から、母に連れられた志津が出てくる。 紙袋を手に持った志津、アキラに気がつき、明るく声をかける。 アキラ、気付く。 れい子もそっちを見る。	奥の店員（ＯＦＦ）「はい、どうも。毎度ありがとうございました。」 店員「おお、毎度！」 志津「こんにちは。」
A	115	いきなりでビックリのアキラ。	
A	116	アキラ、向き直り、お金を隠すように 後ろ手にする。（緊張している。） 志津、母親に説明して 志津の母、にこやかに	志津の母「どなた？」 志津「同じクラスの柳沢くん。」

			アキラに話し掛ける。
A	117		アキラ、緊張している。 ちょっとしどろもどろ。
A	118A	優しい笑顔の志津の母。	
A	118B		
A	119	志津、ちょっと身をかがめて。 アキラ、志津の方を見て。 アキラ、アッ、と気付いて。 志津、体を元に戻す。 お金を数えながら売り場へ歩み寄る アキラ。	
A	120	アキラ、店員からコロッケの包みを 受け取る。 その時、志津の声。 慌てて志津の方を見るアキラ。	

志津の母	「あなたが柳沢くん？」	
アキラ	「は、はい。」	
志津の母（ＯＦＦ）「志津から　よう聞いてます。」		
志津の母	「勉強、ようできるんやってね。志津、学校 慣れてないんでよろしくお願いね。」	
アキラ	「は、はい。」	
志津	「いや、かわいい。妹さん？」	
アキラ	「うん。」	
店員	（ＯＦＦ）「はい、お兄ちゃん、コロッケとアジフラ イ５つずつで五十円。」	
店員	「はい、熱いから気をつけてね。」	
アキラ	「ありがとう。」	
志津	（ＯＦＦ）「柳沢くん、また明日ー。」	

A	121	アキラが振り向いた向こう、志津が手を振りつつ去って行く。母親も軽く目礼。			
A	122	ポーッと見ているアキラの横に、れい子が近付く。 れい子、アキラを見て。	れい子 アキラ	「お兄ちゃん、早くおウチに帰ろう。」 「あ、ああ。」	
A	123	れい子の買い物カゴに、コロッケの包みを入れる。 愛想のよい店員。 肉屋の前を歩み去る2人。 アキラ、チラチラと後ろを見たりする。	店員	「まいど！またごひいきに！よろしく！」	
A	124A	朝、学校の前。 スズメが飛んできて電線にとまる。		（SE：スズメの声）	
A	124B	子供たちが登校している。 若葉。		子供たちのガヤ。	
A	125	アキラ、歩いている。			

		志津が小走りでやってくる。	志津	「柳沢くん、おはよう。」
A	126	志津、歩きになってアキラの横に並ぶ。	志津	「お買い物、いつもしてはるの？」
		アキラ、プイと前に目をそらす。（照れている）	アキラ	「いつもなんてしてないよ。」
A	127	アキラ、反応する。	志津	「うち、男の子やって、お買い物できる方がええと思うよ。」
			アキラ	「え。」
		志津、前方のひかるの声に気付いて走り去る。	ひかる（ＯＦＦ）	「しずー！」
A	128	志津、ひかるの近くまで走って行く。	志津	「ひかる、おはよー。」
			志津	「一緒に行こう。」
		一緒に校門へ入る。	ひかる	「うん。」
A	129	アキラ、その場でポーッと見とれていたが、ハッと気付き、歩き出す。		
A	130	柳沢家外観。		（ＳＥ：遠くでイヌの遠吠え）

			ガラス越しに仕事をしている父の姿が見える。
A	131		アキラが机の上にノートや鉛筆を広げたまま、ボーッとしている。
A	134		ノートに「宮永志津」といくつも書いてある。
A	135		更に寄り、名前がはっきり見える。
A	136	れい子	心ここにあらずのアキラ。 （SE：れい子の足音「タッタッタッタ」） れい子が机の上をのぞきこむ。 「お兄ちゃん、何のお勉強してるの？」
A	137	アキラ	驚くアキラ。 アキラ、慌ててノートの上に体をかぶせて隠す。 れい子のほうを見て。 「漢字の書き取りだよー。れい子、お兄ちゃんの勉強のじゃま
A	138	アキラ（OFF）	キョトンとするれい子。 ちょっと首をかしげる。 アキラ（OFF）すんなよ。」
A	139		小学校外観（昼）。 音楽室あたり。

A	140A	五月十日、音楽室内。 生徒たちを前に話す坂本先生。 騒ぐ子供達。	坂本 「今日は、はじめに、この前約束した宮永志津さんに歌ってもらいましょう。」 生徒達 「わあ、やった！（などアドリブ）」
A	140B	ゴン、ふんぞり返りながら手をぐるぐる回す。	ゴン 「やれー！やれー！」
A	141	志津、立ち上がって出て行く。	坂本 （OFF）「実はこの前、宮永さんとちょっと練習したの。じゃあ宮永さん。」 志津 「はい。」
A	142	志津を目で追うアキラ。	
A	143	アキラの見た目。 楽譜の本を開きながら、坂本と志津で歌う曲の打合せをしている。 坂本、楽譜を持ち、ピアノの方へ。 志津もゆっくりこちらを向く。	坂本 「このあいだのように、しっかりね。」
A	144	志津のUP。	志津 「それでは、『花の街』を歌います。」
A	145	志津、コクリと頷く。	坂本 「宮永さん、私もお手伝いするから頑張ってね。」
A	146	ピアノの鍵盤。 坂本の手がイントロを弾き始める。	（『花の街』前奏）

A	147A	胸に手を当て、歌い出しを待つ志津。 上下にリズムを取りながら歌いだす。	
A	147B	ピアノを弾く阪本先生の顔。	志津 「♪輪になって輪になって」
A	147C	志津の歌う顔。	志津 「♪かけていったよ」
A	147D		志津 「♪春よ春よと、かけていったよ」聞いているゴン。
A	148	聞いているゴン。	間奏 子供A（OFF）「うあわーすごい」 子供B（OFF）「うまいなあ～」
A	149	聞いているゴン。	間奏
A	150	ゴン、それなりに気持ちよく聞いている。	坂本 （OFF）「この歌はね、
A	151	志津を見るアキラ。 感心している。	宮永さんが居た神戸のことを唄った歌なのよ」
A	152	二番に入ると坂本も声を合わせて歌いはじめる。	

		志津、歌いだしのタイミングを合わせるように、坂本と目を合わせてリズムをとる。 志津、緊張が解けたように伸びやかに歌いだす。	志津・坂本　「♪美しい海を見たよ、あふれていた花の街よ」
A	A153	ピアノを弾きながら歌う坂本。晴れやかでありつつも憂愁を帯びた横顔。	志津・坂本　「♪輪になって輪になって踊っていたよ」
A	154	人気のない午後の校舎。明るい日差しの中、用務員が一人ほうきがけをしている。歌声に気付き、上を見る。	志津・坂本　「♪春よ春よと踊っていたよ」
A	155A	音楽室前廊下。	志津・坂本　「♪すみれ色してた窓で」
A	155B		志津・坂本　「♪泣いていたよ」
A	155C	教室内	志津・坂本　「♪街の角で」
A	155D	より熱心に見入るアキラ。	志津・坂本　「♪輪になって輪になって」
A	155E	志津、坂本。	志津・坂本　「♪春の夕暮れ」
A	155F	志津。	志津・坂本　「♪一人さびしく泣いていたよ」

A	156	音楽室全景。 伴奏が終わる。 いっせいに喚声があがる。 拍手をするものもいる。	生徒達 （伴奏） 「ワーッ！」	
A	157	志津、どぎまぎ。 喚声が続く。	生徒A 生徒B 生徒C 生徒D	「歌手みたーい。」 「すごーい。」 「上手―。」 「きれいな声―。」
A	158	ヨシオ、立ち上がって大喜び。	ヨシオ	「たった今、木場小のスターが生まれました！」
A	159	坂本、志津のほうを見て。 坂本、志津の方に手をやり、 また皆の方を向き。	坂本 坂本 坂本	「はい、みんな、ありがとう。」 「宮永さん、よかったよ。」 「声が口先ではなくお腹から出ていたでしょう。」
A	160	女生徒（後藤ひかる）が手をあげて 質問する。	坂本	「年末の合唱大会が楽しみになってきたわね。」

		坂本と志津、ひかるを見る。	ひかる　「先生、出場者はいつ決まるんですか？」
A	161		坂本　「音楽の時間に、6年生に一人ずつ歌ってもらって、各クラスから7・8名選ぶことにします。」
A	162		坂本　「夏休み前には練習に入りますからね。」
A	163	昼。 イカダが浮いている貯木場（堀）。	
A	164	イカダの上で遊んでいる アキラ、ゴン、ヨシオ、テル。	
A	165	橋の上。 カンカン帽に着流しみたいな おじさんが歩いてくる。 遊んでいる4人に気付く。	
A	166	堀の向こうに遊んでいる4人の姿。 おじさん、ゴンたちに向って怒鳴る。	おじさん　「おーい、いかだに乗っちゃダメだ。」
A	167	おじさんの声の方を向くゴンとテル。	おじさん（OFF）「あぶないぞ～！」
A	168	今、飛び移ろうとしていたヨシオと隣に移ったアキラも声の方を見る。 ヨシオ、気をとられて 足のバランスを崩す。	おじさん（OFF）「落ちても知らねーぞ！」 ヨシオ　「うわっ！」

A	169	ヨシオ、完全にバランスを崩して画面いっぱいに倒れこむ。	ヨシオ　「わっ、わっ、わーっ！」
A	170	水柱が盛大にあがる。 3人が反応する。	（SE：ドボーン）
A	171	それを見ていたおじさん。 大笑い。	おじさん「ほーら、だから言わんこっちゃない。 ワハハハハ。」
A	172	ヨシオを助けるアキラ。 3人は大笑い。	ゴン　「ドジだなーヨシオはー。」 テル　「おじさんが余計なこと言うからだよ。」 3人　「（笑い）」
A	173	ヨシオ、イカダの上にりながら笑い出す。 最後は4人で大笑い。	3人　「（笑い）」 ヨシオ　「（笑い）」
A	175	柳沢建具店正面。 店の前の通りで父・元司が材木を切っている。 その手伝いで木を押さえているアキラ。 横の路地でれい子が友達と石蹴りをしている。	（BGM：ラジオから流れる『白い花の咲く頃』※前奏の前半は不要）
A	177	のこぎりをふるう父。 仕事時の厳しい顔。	
A	178	押さえるアキラの横顔。	

A	179	家の横の路地。 石蹴りをして遊ぶれい子とその友達。	
A	180A	材木が切れる。 アキラ、切れた片側を、横に積んである材木の上に並べる。 父は切れ目を確認してから、かがむ。	
A	180B	通りの向かいの家から大家の島津が声をかける。	島津　「柳沢さん、電話だよ。」
A	181	父、答えて。 アキラに向いて。 父、元にもどり、苦虫を噛み潰したような表情で。 頷くアキラ。	父　「はーい！」 父　「おいアキラ、電話に出てくれ。」 父　「金子工務店だったら、あさってできるって言っといてくれ。」 アキラ　「うん。」
A	182	島津家玄関上り口。 帳簿をつけている島津。 アキラが入ってきて立ち止まる。	アキラ　「いつもすみません。」
A	183	受話器を取る。	
A	184	ちょっとためらってから、	

			電話に出る。 アキラ、困る。 チラリと玄関の方を見やる。
A	185	アキラ 金子 金子 アキラ	「はい、柳沢建具店です。」 （ＯＦＦ）「息子さんかい？父ちゃんは？」 （ＯＦＦ）「ははあ、今日はまだ出来てないんだな。」 「・・・あさってには出来るって言ってました。」
A	186A	金子 アキラ 金子 アキラ 金子	仕事を続ける父の姿が見える。 ちょっと体を起して。 アキラ、受話器を戻す。
A	186B	島津	アキラ、体をひいて土間に下りる。 島津がアキラの方を向いて。

（ＯＦＦ）「また、あさってかい。困るんだよ。遅れた分だけはお金を安くしてもらうよ。」
「すみません。」
（ＯＦＦ）「父ちゃんに言っときな。電話でも入れてもっとちゃんと商売しないとダメだって。」
「はい、すみません。」
（ＯＦＦ）「ほんとにしょうがないなあ・・・。」
（電話を切りながら、ガチャ。）
「アキラちゃん。」

A	186C	アキラ、島津の方を見る。	島津　（OFF）「早く電話を入れてくれなくっちゃ困るって、お父さんに言っといてよ。」
A	187		島津　（ON）「相手の方も、あたしに気兼ねしてるしねえ。」
A	188	困った表情のアキラ。 アキラ、少し目線を落とす。	
A	189	夜。 通りの街灯が灯っている。 虫が電球の周りを飛び交う。	母（OFF～ON）「電話って、簡単に言うけど。」
A	190	仕事場を表から見た図。 建具を組み立てる父。 その反対端をおさえるアキラ。 母は奥のテーブルの上で糊を練っている。 （夏なので表の戸は開け放し。）	母　「今そんな余裕ないよ。」
A	191	アキラ、顔を上げ。 母、作業の体勢から体を起して向き直り。 父は黙々と作業を続けている。 アキラも父の方を見る。	アキラ　「でも島津さんにも悪いよ。多い日は2・3回は呼び出しだって言ってた。」 母　「とにかく電話が少なくて済むように、仕事の段取りをちゃんとしないと・・・。」
A	192	黙って作業を続けている父。	アキラ（OFF）「あさっての柳沢さんじゃ困るって。」

		父、建具をひっくり返しながら。	父「好きなように言いやがる。こっちは腕は確かなんだ。いいかげんな仕事ができるかってんだ。」
A	193		母「それはお父さん、金子さんは、約束した日に出来ないのを言ってるんだよ。」
A	194	父、ヤケになって。	母「あさってって言い訳は通用しないよ。」 父「それなら今度は明日って言ってやろう。」
A	195	父、作業を続けたまま。	父「とにかく――電話のことは俺にも考えがある。」
A	196	父を見つめるアキラ。 父の作業に合わせて建具を押さえた腕が動く。	
A	197A	日中、学校の校庭。 体育の授業でソフトボールをしている ４組。	生徒たち「わーわー」　※１０人くらいのガヤ
A	197B	地面に描いたスコア。	（ＳＥ：カキーン！）
A	198	三塁のアキラ、華麗にゴロをキャッチして、 一塁に投げる。	ガヤ「走れ走れー。」
A	199	一塁のハカセ、ぎこちなくキャッチ。	（ＳＥ：パーン）

		遅れてバッターが走り抜ける。	ガヤ 「頑張ってー。」
A	200		水野 「アウト！」
A			一塁側 「うわー！いいぞアキラ！（アドリブ）」 「いいぞ。」 「宮永、ワンナウトワンナウト」
A	201	ハカセからの返球をキャッチする志津。	ハカセ（ＯＦＦ）「あと二人、頑張って！」
		志津、頷きながらこたえ、ホームベースの方を見る。	志津 「うん。」
A	203	ヨシオが自信満々にバッターボックスに入る。	赤の生徒 「かっとばせ川畑！」 「川畑君頑張って。」 「たのむぞ、ヨシオ。」
A	204	赤のベンチ。	ゴン 「おいヨシオ、ボールよく見ろ。打てなかったらデッドボールでいいぞ！」
A	205	かまえる志津。	
A	206	かまえるヨシオ。	
A	207	志津。 セットして、アクション。	
A	208	志津が投げる。 球が手を離れ、ボールが手前に	

		飛んでくる。	
A	209	志津の髪が舞う。 ヨシオ空振り。 跳ね上がった志津のポニーテールがおさまる。	水野 （SE：パーン） 「ストラーイク！」
A	210	志津の動きがおさまる。 ニッコリと微笑む。	白の子供たち（OFF）「いいぞ宮永！（他アドリブ）」 「その調子、その調子。」
A	211A	ゴン叫ぶ。	ゴン 「ヨシオ、ボールを良く見ろ！」
A	211B	軽く頷くヨシオ。 かまえる。	
A	211C	志津、第二球を、投げる。	
A	211D	滅茶苦茶なスイングだが、バットに当たる。	ヨシオ 「うりゃあー！！」 （SE：コーン！）
A	211E	フライになる。	ハカセ（OFF）「ショート、バックバック！取れるぞー！」
A	211F	ショートの女の子、二・三歩バックしながら捕球する構え。 でも落球。 サードのアキラがカバーに走る。	女の子 「オーライオーライ」 女の子 「ヒャー！」 赤の子供達 「いいぞー川畑！」

A	211G	一塁ベース上にヨシオがいる。 ガッツポーズ。	ヨシオ　「よっしゃ、うった。」
A	211H	ショートの女の子、1・2歩近寄り。	女の子●　「志津、ごめん。」
		志津、グローブを横に振る。	志津　「有馬さん、大丈夫大丈夫！」
		志津、アキラの方を見る。	アキラ（OFF）「宮永―」
A	211I	アキラ、志津にボールを返す。	アキラ　「ランナー気にしなくていいぞ。」
A	211J	志津、ボールをキャッチ。	志津　「うん。」
A	211K	ゴンの手。 ゆっくりとバットを持ち上げる。	
A	211L	バッターボックスのゴン。 余裕で構える。	赤組（OFF）　「ゴンちゃん、ホームラン！」
A	211M―①	ぐっと身構える志津。	
A	211M―②	ゴン。	
A	211N	セットして、 アクション。	
A	211O	ボールを投げる志津。	

A	211P	ゴン、ピクッと動く。	
A	211Q	ミットに速球がおさまる。	（SE：ドーン！） 水野　（OFF）「ストラーイク！」
A	211R	白の子供達。	白の子供達　「いいぞ！宮永！」 「よっし」
A	211S—①	ボールを投げ終えた志津	
A	211S—②	志津、ニッコリと微笑む。	
A	211T	志津のスピードに真剣な表情になるゴン。	
A	211U	サードのアキラ、志津の方をチラリと見る。	
A	211W	志津、大きく深呼吸して、一度落ち着いてから、グローブで右の袖をグイッとあげる。 力を込め、全力投球。	
A	211Y	ボール、マルチ上段。	
A	211Z	打ちに行くゴン。	
A	211イ	バットのUP。 スローモーション。	

A	211ロ	三塁線上に飛ぶボール。 三塁守備はアキラ。	（SE：カーン）
A	211ハ	志津、フォロースルー。	志津　「お願い！」
A	211ニ	ボールが飛んでゆく。 カット尻、アキラのグローブがIN。	
A	211ホ	アキラ、ダイビングキャッチ。 スライディングして土煙が上がる。	
A	211ヘ	ゴン　STOP。	
A	211ト	志津、アップ。	
A	211チ	走っていたヨシオ。 慌ててストップ。 ちょっとすべる。	ヨシオ　「うわー！」
A	211リ	アキラ、すばやく起き上がり、 送球。	
A	211ヌ	ヨシオ、慌てて戻るが間に合わず。	（SE：パーン！）
A	211ル	水野の拳がフレームIN。	水野　（OFF）「アウト！」
A	211ヲ	大喜びの白組の子供達。	水野　（OFF）「試合終了！3対2で白の勝ち！」 子供達　「ワーーーーッ！」

A	211ワ	志津、アキラの方を振り向く。	子供達 白組 「ワーーーーッ！」 「やったー！」
A	211カ	泥だらけのアキラ。 ニコリと笑う。	子供達 白組 「ワーーーーッ！」 「よーし！」
A	211タ	同日、夕方。 道を有馬と志津が歩いている。	有馬（OFF～ON）「志津はいいよねえ、何やってもうまいから。」 志津「ううん、そんなことあらへんよ。」
A	211レ	志津、感心して。	志津「でも、柳沢くんも上手なんやね。」 有馬「ソフトボールだけじゃなくて、走りも速いのよ。」 志津「へえー、そうなん。」
A	211ソ	二人の後姿。	有馬「運動できる人って、うらやましいなあ。」 志津「有馬さんやって、絵も唄も上手やん。」
A	213	建物の間にひらけた空地。 ビー玉遊びをしているアキラ、ハカセ、 ヨシオ、テルの4人。 手前の斜線をオート三輪が	

		通り過ぎて行く。	
A	214	地面。 ビー玉がぶつかってはじける。	
			● （ＳＥ：カチン） ヨシオ（ＯＦＦ）「やったー。」 「よし」
A	215	地面のビー玉を囲む４人。 向こう側からゴンがやってくる。 皆、ゴンに気付き、顔をあげる。	
			ゴン　「おい！」
A	216	ハカセとヨシオ、立ち上がる。 ゴンが投げたキャラメルの箱を ハカセが受け取る。 続けてテルも受け取る。	
			ゴン　（ＯＦＦ）「キャラメルだ。みんなで分けろ。」
A	217	ゴン、ニヤリとして歩きだす。	
			ハカセ（ＯＦＦ）「ゴン、またやったのか。」 ゴン　「フンッ。」
A	218	ゴン、立ち止まる。 ゴン、アキラ達を見て。 ゴンの言葉に感動しているヨシオ。	
			ヨシオ　「もう、ゴンちゃん、うまいんだから。」 ゴン　「少しくらいとったって、店はどうってことないんだよ。」 ゴン　「今度は文房具屋をやるぞ。」

A	219	アキラ、立ち上がりながら。 テル、しゃがんだまま アキラの方を見て。 またキャラメルに目を落とし。	アキラ「もうやめた方がいいよ。」 テル「優等生はすぐにビビるからダメだ。」 テル「あそこはおばあちゃん一人しかいないし、絶対にうまく行くさ。」
A	220	ゴン、ヨシオの方を見て。 ヨシオ、目を輝かせ身を乗り出し。 ゴン、アキラたちの方を向く。	ゴン「消しゴムと鉛筆、小刀、筆箱やクレヨンもいける。」 ゴン「ヨシオ、何がどこにあるのか、店の中を調べておけ。」 ヨシオ「まかせといて、オレ、考えただけで、ゾクゾクしちゃう。」
A	221A	テルはやる気まんまんで 敬礼などをしている。	ゴン（OFF）「お前らも楽しみにしてろよ。」 アキラ「・・・・。」 ハカセ「・・・・。」
A	221B	ゴンの父の店。 道の真中で子供たちが相撲などをしている。	（SE：豆腐屋の笛の音『パープー』）

	A		A
	221C		222
ゴンが帰ってくる。	店の中、奥でゴンの父が仕事をしている。 ゴンが入ってくる。 父、体を少しだけゴンのほうにむけて。 ゴンも素っ気なくこたえて、すぐに外に出て行く。	昼間の学校。 季節は梅雨。 アジサイが咲いている。	
	ゴン 「ただいまー。」 ゴン父 「おいゴン、どこ行ってたんだよ。店の掃除をやってくれよ。」 ゴン 「ああ・・・。」	坂本　（ＯＦＦ）「皆さん、合唱大会に出場する人が決まりました。」	坂本 「このクラスからは８名です。」 生徒たち 「ワァー。」 坂本 「名前を呼ばれた人は、放課後、他のクラスの人と音楽室に集まってください。」

A		
224		
呼び上げるごとに、生徒たちが反応する。		
坂本	「有馬君代。」	
有馬	「ハイ。」	
ヨシオ	「おい、君代、頑張れよ。」	
坂本	「後藤ひかる。」	
ひかる	「やったー！」	
生徒	「オー」　などザワザワ	

A		
225		
返事するハカセ。		
坂本	（ＯＦＦ）「杉浦ヒロシ。」	
ハカセ	「ハイ。」	
坂本	（ＯＦＦ）「田島ヤヨイ。」	
ヤヨイ	「え？あ、ハイ。」	
	（生徒たちザワザワ）	

A		
226		
アキラ、坂本の声を聞いているが、		
坂本	（ＯＦＦ）「高橋好子。」	
高橋	（ＯＦＦ）「ハイ。」	

			チラと隣の志津の方をうかがう。
	坂本	（ＯＦＦ）「中島正子。」	
	中島	（ＯＦＦ）「ハイッ！」	
A	227	一心に坂本の方を見ている志津の横顔。	
	坂本	「宮永志津。」	
		名前を呼ばれた瞬間、パーッとその表情に光が射す。	
	志津	「ハイ。」	
		生徒の喚声で、呼び上げの声は一旦止まる。	
	生徒たち	「あいつ、うまいもんな。」	
	生徒たち	「ワーッ！」	
	生徒たち	「やっぱり！」（生徒たちザワザワ）	
A	228	その志津の表情に、思わずポーッとなるアキラ。	
	坂本	（ＯＦＦ）「柳沢アキラ。」	
	アキラ	「あ、ハ、ハイ。」	
	坂本	（ＯＦＦ）「以上８人です。」	
		自分の名前を呼ばれ、ハッと気付いて前を見る。	
A	229		
	坂本	「他のクラスもそうですが、女子が多くなりました。」	
A	230A	オレには関係ない、というふうなゴン。	
A	230B	６年４組の札。	
	坂本	（ＯＦＦ）「代表に選ばれた人たちは、他の人の分も頑	

	A	A	A	A	A
	234	235	236	237	
	木場の街。 軽自動車が破棄された広場。	その広場で、小さな3人の子供たちが棒を持ってちゃんばらごっこをして遊んでいる。 追いかけあいながら走り去る。 廃自動車の山のあたりにたむろしているアキラ、ゴン、テル、ヨシオ。	広場の隅、廃自動車の近くで話している4人。 ゴンは親分気取り。 ゴン、吐き捨てるように。	ヨシオとテルは興奮している。 アキラ、うつむき加減にゴンの方を見て。 また目を上げ、ゴンをキッと見て。	
張って合唱大会に向かって練習しましょう！」		子供A　「え～いっ！」 子供B　「や～。」 子供C　「おら～。」 テル　（OFF）「ハカセは急用ができたって。」	ゴン　「イヤな奴はいいさ。」	ゴン　（OFF）「おい、アキラ。お前はビビってないんだろうな。」 ヨシオ　「4年生からの付き合いじゃないか。裏切るなよ、アキラ。」 アキラ　「うん、やるよ。」	

	A	238	アキラをジッと見つめ返すゴン。 沈黙の間。 それから皆を見渡して。
アキラ	「・・・でも、これで最後にしような、ゴン。」		
ゴン	「よし、行こう。作戦は歩きながら話す。」		
	A	239	ゴンを先頭に、広場の隅の鉄条網の方へ。 アキラは最後尾。 屈んで鉄条網の穴をくぐり抜ける。
	A	240	商店街。 三木文具店看板。
			（ＳＥ：商店街の雑踏）
	A	241	店内から見た戸の足元。 向こうの通りにテルの足がＩＮ。 通りからの光で店内に影が落ちる。 足は逆光。 続いてゴンもＩＮ。 テルの足が戸の前で立ち止まると、戸を引いて開ける。
			（ＳＥ：ガラガラガラ）

A	A	A	A
242	243	244	245
勘定場の三木。 おばさんが顔を上げ。	帳場の三木おばちゃん。 顔をあげた後姿。 入り口から入ってくる逆光の少年達。 （テル、ゴン、アキラ、ヨシオの順で）	入ってくるテル、ゴン。 その後ろにアキラ。 入る直前に、アキラが一度立ち止まり、再び歩き出す。	店の奥の勘定場に座っている三木にテルが話し掛ける。 ヨシオはアキラを追い越して棚の商品を見ている。 アキラは一番後ろにいる。 三木、立ち上がってクレヨンの所へ行く。 テル、おばさんの方に寄り。 他の３人はおばさんの様子を
三木 「いらっしゃい。」			テル 「クレヨン見たいんだけど。」 三木 「クレヨンはこっちだよ。十二色？二十四色？」 テル 「二十四色かなあ・・・。」

		チラリとうかがう。	
A	246	奥の棚の前でクレヨンを吟味しているテルと三木。 テル、クレヨンを一箱手に取り。	テル　「これは高すぎる。」
A	247	ヨシオ、ゴンの方を見る。 目線を交し合う3人。 ゴン、アキラにも目線をやり、 コクリと小さく首を振って合図をする。	
A	248	アキラ、息をのむ。	テル　（OFF）「おばさん、こっちも見せてよ。」
A	249	棚に並べられたセルロイドの筆箱に、サッと手を伸ばす。	三木　（OFF）「これはいいよ。」
A	250	棚の鉛筆を、ヨシオの手がサッと一束取る。	テル　（OFF）「迷っちゃうな～、どっちにしようかな。」
A	251	消しゴムの棚。 アキラの手がサッと3つほど握る。	テル　（OFF）「12色でも高いもんなぁ～」
A	252	ズボンの後ろポケットなどに、 取ったものを隠す3人。	
A	253	三木が3人の方を見る。	
A	254	後手のまま固まる3人。 ヨシオ、ちょっと身を引く。	

			アキラ、ヨシオの方に目をやり、ハッとする。
A	255	アキラの見た目。 ヨシオの半ズボンの後ろポケットに指してある鉛筆が、スーッと1本傾いて行く。	
A	256	焦るアキラ。 鉛筆の動きを追って徐々にのけぞる感じ。	
A	257	そして鉛筆がポロリと落ちる。	
A	258	鉛筆が床に落ちて音を立てて転がる。	（SE：カラーン）
A	259	ハッと身を乗り出す三木おばさん。	
		テルも顔をあげる。	
A	260	ヨシオ、ハッとして、 足元を見て、 ヤベ！という感じで身を引く。	
		アキラは凍り付いている。	
A	261	ヨシオの動きで、更に数本がポケットからこぼれ落ちる。	（SE：カランカラン）
A	262	ヨシオ、見下ろしてから顔を上げ、	

		三木の方を見て、口をパクパクする。	
A	263	アキラも三木の方を見る。 三木、大きな声で。 三木、3人の方へ歩みだす。	三木 「ちょっと、あんたたち！」
A	264	ゴン、後手で筆箱を戻す。 三木が3人のところへやってくる。 三木、ヨシオの手をつかみ。 ゴンに。 アキラに。	三木 「今、何したの！」 三木 「ここに並んで今とったものを全部出しなさい。」 三木 「ほらアンタ。」 三木 「アンタも！」
A	265	アキラ、動揺した様子で ズボンの後ろへ右手をまわして ゴソゴソする。 消しゴムを取り出し、自分の手を 見下ろす。	
A	266A	手のひらの上の消しゴム。	
A	266B	ゴン、強弁。	ゴン 「俺はとってないぜ！」

A	A	A	A	A
267	268	269	270	271
三木、ジッとゴンを見てから、 ゴンの肩に手をやり、 後ろのポケットを確かめる。 ゴンも誇示するように見せる。	三木、のぞいていた体勢から 起き上がり、 アキラの方を向いて。	皆、顔を落としている。 ゴンだけは不敵な目をしている。 三木、くるりと振り向いて、店の奥へ。	三木、店の奥の勘定場の方へ。 テル、三木が通る時、 ちょっと身を引く。 ゴソゴソと勘定場の引出しから 紙と鉛筆を出す。 机の上にそれを置き、こっちを向いて机をバン！と叩く。 ゴン以外は、ビクッと反応する。	ヨシオ、アキラ、ゴン、 3人目を交わし、
	三木 「アンタ達、泥棒だよ。しかもグルになって。」	三木 「この商店街で万引きが多いのは、あんた達のせいなんだね。」	三木 「はい、この紙に名前と学年、先生の名前も書いて。」	

	まずゴンが歩み出し、続いてアキラ、それを見てヨシオ。 ３人とも店の奥へ歩き出す。				
A	机の上に置かれた紙に、４人の名前。 アキラが最後に名前を書き終わる。	272			
A	勘定場で名前を書き終わった４人。 三木、アキラの名前を見て。 アキラ、黙って鉛筆を置き、身を起してかしこまる。 三木、ちょっと興奮したように身を乗り出す。	273	三木	「柳沢って、あの建具屋さんの息子かい？ 勉強できるって聞いてたけど、 こんなことをするのかい。情けないねえ。」	
A	みじめな気持ちで三木の言葉を受け止めているアキラ。	274	三木	（ＯＦＦ）「これからの日本が心配だよ。 人間、楽して得するようなことしちゃダメなんだよ。」	
A	相変わらず難しい顔で聞いているゴン。 チラッとアキラの方を見る。	275	三木	（ＯＦＦ）「親も学校もなっちゃいないねえ。 すぐ今日のこと話しに行くからね。」	

A	276	勘定場の前の４人。 三木、厳しく締めくくる。	三木　「そのつもりでいるんだよ！」
A	277	商店街。 三木文房具店正面。	
A	278	イカダの浮く水面が キラキラと光っている。	
A	279	水面、スダレ引き。 ４人が堀のヘリに座っている。 ヨシオが顔をあげる。 また俯く。 テルが顔を上げ、アキラの方へ。 アキラも顔を上げて聞き、 また向こうを向いて。 しばらく沈黙。 アキラ、小石を投げる。	※ＳＥ　ポンポン船 ヨシオ　「ヘマやってごめんよ。」 ゴン　「見つかっちゃ、しょうがねえよ。」 テル　「どうする、アキラ？」 アキラ　「うん、帰って本当のことを話すしかないよ。」
A	280	アキラの投げた石が水面に落ちて 波紋を広げる。 キラキラと夕陽を映している。	（ＳＥ：ボチャン）

A	281	わずかに赤みが残る西の空。 電灯が灯る。
A	282	材木屋の並ぶ通り。 アキラが歩いている。
A	283	物思いに沈むアキラ。 通行人とすれ違う。
A	284	路地の縁台に座ってタバコをふかす老人。 その前を、肩を落として歩くアキラ。 老人が、煙を吹き出し、 アキラの方をチラと見る。 アキラはトボトボと歩いて行く。
A	285	アキラ、材木屋の通りを奥へ歩み去って行く。
A	286	橋の上に、アキラがやって来て立ち止まり、欄干に手をつく。
A	288	川を見つめるアキラ。 心ここにあらず。
A	289	堀のイカダの間をハシケが進んでいる。 （SE：ポンポンポンポンポン）
A	290	アキラの横顔

A	300	わずかな夕空の光を映しこんでゆらめく川面。	
A	301	柳沢建具店表口の看板。 入り口の戸は開け放たれている。	
A	302	柳沢建具店の中から見た出入口の外の地面。 街灯の明かりの中にアキラの影が入って来て立ち止まる。 柳沢建具店内の仕事場。 れい子がひとりで作業台の上で人形か何かを置いて遊んでいる。 やがて思い切ったようにアキラが入口に入ってくる。 れい子が気付く。 奥に向かい、	れい子　「あっ、お兄ちゃんだ。」 れい子　「お兄ちゃん帰ってきたよ。」
A	303	母が台所の方から出てくる。	母　「れい子、ちょっと外で遊んできて。」
A	304	アキラの脇を抜けてれい子が外へ出て行く。 アキラ、母の方を見る。	れい子（ＯＦＦ）「はーい。」 母　（ＯＦＦ）「アキラ、中に入んなさい。」

A	305	厳しい表情でアキラを見る母。	
A	306	アキラ、母の視線に耐え切れず、思わず目をそらす。	
A	307	居間に母とアキラが正座をして向き合っている。	母 「アキラ、今、三木文房具の奥さんが帰ったとこ。 三木さんが言ったことは間違いないんだね？」
A	308	アキラ、うつむき気味で。	アキラ 「うん・・・。」
A	309	母、少し間があってから。	母 「すぐ手と顔を洗って、ご先祖様の前で、今日お前がやってきたことをお話ししてきなさい。」
A	310	仏壇。	
A	311	仏壇の前で正座して、手を合わせているアキラ。	
A	312	手を合わせるアキラ。 母が入口のところへやって来て。	母 「今から母さんと、三木さんにお詫びに行こう。」
A	313	夜の商店街。 店には灯りがついていて、まだ営業している。	

A	A	A
315	316	317
三木文房具店の看板。 まだ店に灯りがついている。	店じまいをする三木。 その脇で深々と頭を下げて詫びるアキラの母。 アキラはその後ろに立っている。 三木も振り返って、二言三言。 母がアキラに頭を下げさせる。 三木が手で制す。	仕事場。 作業台の上で建具を組み立てる作業をしながら、父がアキラに話している。 アキラは縮こまるように聞いている。 父はアキラに目をやらずに、作業をしながら聞いている。
	三木　（以下、声は聞こえない。イメージ） 「まあね、こういうことがもう二度となければ・・・。」 母　「ホラ、お前も。」 アキラ　「ごめんなさい。」 三木　「もういいわよ。」	父　「万引きは前からやっていたのか？」 アキラ　「・・・キャラメルとか、本とか、何回か・・・。」

A	318	作業を続ける父。	父　「・・・戦争で全てをなくしてしまって、貧しい生活が続いているけど、父さんはお前たちが立派に育ってくれて、とても誇りに思っていたんだが・・・。」
A	319	黙って聞いているアキラ。 アキラ、ポツリと告白。 目は合わせられず、下に落としたまま。	アキラ　「・・・悪いってわかってたのに、なんかやめられなかったんだ。」
A	320	父、初めて仕事の手を止め、アキラの方に目をやり。 また目を作業の方に移し。	父　「自分が何をしようと、自分の勝手と思ったら大間違いだ。」 父　「人の道に外れたことをしちゃいかんよ。」
A	321	神妙な顔のアキラ。	父　（ＯＦＦ）「母さんがどんなに心配しているか」
A	322	（回想） 三木に頭を下げる母の姿。	
A	323	父の言葉にハッと顔をあげるアキラ。	父　（ＯＦＦ）「とにかく、今回万引きを発見されてよかった。」
A	324	父、作業している。	父　「ここで見つからなかったら、これからもっと大きな悪いことを平気でするようになっていたかも
A	325	神妙な顔で父の言葉を受け止めてい	父　（ＯＦＦ）―しれない。」

		る アキラ。	
A	326	翌日、日中。 小学校。	
A	327	校長室の窓の外から中の様子が見える。 アキラ、テル、ヨシオの3人の母親が呼ばれて、並んで座っている。	
A	328	校長室のテーブル。 母親たち、頭を下げてあやまっている。 中には泣いている者もいる。 （みんな他所行きの服装）	
A	329	校長が真面目に話している。 滝井は横で腕組みをしている。	（セリフなし）
A	330	アキラの母。 顔を上げ、真剣に何か言う。	（聞こえない）
A	331	校長、話す。	
A	332	強ばった表情の坂本。	
A	333	校長室前の廊下。 4人が手持ち無沙汰に待っている。 校長室のドアが開き、滝井が出てき	

		て二言三言。 ４人、そちらを見る。 滝井に導かれて４人とも校長室に入って行く。 校長室のドアが閉まる。	A	334	夜。 月が出ている。	
			A	335	職員室前の廊下。 職員室のみ明かりがついている。	
			A	336	職員室の一角。 ６年生の担任のコーナー。 校長も来て座って話している。 話す校長。	校長（ON～OFF）「今までの議論で、問題を起こした生徒と親との話し合いの場を持つこと。」
		真剣な面持ちで校長の話を聞く坂本。 滝井も腕を組んでいる。	A	337		校長　（OFF）「全生徒に、万引きがいかに問題なことかを話し、生徒自身に自覚を促すこと―」
	他の先生たち。		A	338		校長　（OFF）「そして、父兄会で学校と家庭での生活指導のあり方を話し合うこと、が決まりました。」
校長、顔を上げ、みんなに質問する。			A	339		校長　「他に何か？」

A	340	秋山先生が手をあげる。	
A	341	秋山、乗り出し。 他の先生の方も向き。	秋山 校長 秋山
A	342A		秋山（OFF～ON）「私は、私ども教師と生徒が共に反省し、こ のようなことを起こさないという決意の表し方として」
A	342B		秋山
A	343	水野、持っていた名簿を見ながら。 名簿をおろして。	水野
A	344	滝井、顔を上げ。	滝井
A	345	校長先生。 ため息をつくように肩を落として、 視線を外す。	
A	346	話を聞いている先生たち。	

「はい。」

「では秋山先生、どうぞ。」

「今回、商店街の人たちから、厳しい指導をとの要望があったということは、残念ながら、当校の生徒によると思われる万引きが、
他にも起こっている可能性がある。」

「対外行事、例えば合唱大会への参加を、辞退するべきだ、と考えます。」

「合唱大会には、万引きをした柳沢が選ばれていますね。
少なくとも柳沢は外した方が・・・・。」

「私は今でも信じられません。なぜ、柳沢はこんなことをしたのか・・・。」

A	347	坂本、思いつめた顔で考えていたが、身を乗り出して意見を述べる。 滝井もそっちを見る。	坂本 「私は、大会に出ないことにも柳沢を外すことにも反対です。」
A	348	力説する坂本の横顔。 意志に満ちている。	坂本 「進学先の中学校もかなり荒れていると聞きます。子どもたちの心に何か起こっている。 いや、何かが失われていると言った方がいいのかも知れない。」
A	349	話す坂本を見つめる校長。	坂本　（ＯＦＦ）「今こそ子どもたちの心を一つにする必要があると思うんです。」
A	350	秋山が身を乗り出し、反論。	坂本 「大会に出る人は一部の人だけど、 多くの子ども達が日本の童謡や唱歌の 素晴らしさを心に感じることができるでしょう。」 秋山 「悪いことをすれば、自分の勝手では済まされない。」
A	351	語る秋山。	秋山 「時にはみんなに迷惑をかけ、 時には関係ない人たちの夢や楽しみも 粉々にしてしまう、ということを分からせるにはいい機会です。」
A	352	秋山の言葉にショックを受けている	秋山　（ＯＦＦ）「この事態を我々がいかに厳しく受け止めた

			坂本。
A	353	坂本、身を乗り出し。	
		坂本、夏目先生の方を見る。	坂本	「すでに柳沢君を含め、関わった子供たちは、みんな反省しているんですよ。」
		坂本、水野たちの声に、またそちらを見る。	夏目先生	「先生、それはわかりませんよ。」
			水野	「ちょっと甘いんじゃないかな。」
			秋山	「悪いことをしたとの認識がないから問題なんです。」
			夏目先生	「その通りですよ。遊び感覚で人のものを盗んでるんですよ。」
A	354	坂本、反論したくて口を開きかけるが、言葉が出ず、うつむく。	坂本	「ああー。」
A	358	翌日、教室前の廊下。		（SE：学校内の喧騒）
A	359	6年4組教室内。休み時間。何人かが固まってヒソヒソ話。	ガヤ	「えームリだよ、そんなの。」
			ガヤ	「なんでー。」
A	360	ハカセ、本を読んでいるフリ。テルがハカセにからむ。	テル	「ハカセ、自分だけいい子になりたいのか？」

		A	A	A	A	A
		361	363	364	365	366	367
耐えるハカセ。 テル、体を起す。	ハカセ、テル、ゴン、ヨシオ ※やや俯瞰のショット。	入口の扉脇で考え事をしているゴン。 チラリとアキラの方を見る。	アキラ、窓から外を見ている。	どこを見るともなく、 ボーッとしているアキラの横顔。	女の子たちが万引きの件について ヒソヒソとうわさ話をしている。 志津は後ろの席で本を読んでいる。 志津、「柳沢くんも」で 目をあげてちょっと見る。	志津、その言葉が気にかかり、
ハカセ テル			ガヤ ガヤ	ガヤ	A B（高橋好子） A C	
「・・・。」 「ちっ！」			「なあ、すげえだろう。」 「へえー。」	「それはいつからだよ。」	「川畑くんと吉村くんなんだってね。」 「柳沢くんもだよ。」 「え！柳沢君も？」 「でも安倍くんが中心だよね。 柳沢くんもなんで安倍くんに付き合ってるんだろうね。」	

		窓辺のアキラの方へ物思わし気な視線を向ける。	
A	368	志津ナメ、アキラの後姿。	
A	369	教室の入口。 ヤヨイが駆け込んでくる。	ヤヨイ 「みんな、ちょっと、聞いて聞いて！合唱大会には出られなくなったのよぉ！」
		ゴン、反応する。	
A	370	その言葉に驚く生徒たち。 志津もハッという感じで反応する。	生徒たち 「えっ！」 「本当かよ。」 「なんでぇ～。」 「そんなぁ。」 「へんだよ。」 「何で急に。」 「何で、何で。どうして。」 「うそぉ～」 「どういうこと。」 「おかしいよ～。」
A	371	顔をあげるハカセ。	ハカセ 「！！」
A	372	ゴン、わずかな表情変化。	「！？」
A	373	ヨシオとテルも驚く。	「！！」
A	374	窓際。 振り向いて、あ然としているアキラ。	

			背中越しの視線にハッと気付いてそちらを向く。
A	375		こちらを見ていた志津と目が合ってしまうアキラ。
A	376		驚きに打たれたような志津の表情。
A	377		戸惑いのアキラ。 何も言えずに視線を落としてしまう。
A	378		それを見た志津、スッと表情が沈む。 （体の力も抜ける。） 責める風ではなく、しかしどこか冷たい表情。
A	379		教室の前の方では情報をもたらしたヤヨイの周りに生徒たちが集まっている。 突然ゴンの大声が響き渡る。 全員ハッとしてそちらを見る。
A	380	ゴン	叫ぶゴン。 体に力が入っている。 「万引きが悪いなら、それだけを問題にすればいいんだ。俺たちを罰すればいいん

			だ！」
A	381	ゴン、強く。	ゴン「合唱大会に出るか出ないかなんて、なんで関係ないことに話がいくんだ！」
A	382	あっけにとられているヤヨイたち。	
A	383	アキラもボーゼンとゴンを見る。	
A	384A	何か、ひどく口惜しそうなゴン。	
A	384B	思いつめる志津。	志津「・・・・・。」

S			
C	385		
画面		（雨雲）　夏の午後 雲の中で稲光がピカピカ光る。 雨の降り出す音 【テロップ】 昭和３１年（１９５６年）夏	
音声	SE「ゴロゴロゴロゴロロー（雷）」 SE「ポッ　ポッ　ポッ・・・・」		
B			

B	386	深川の俯瞰 雨が降っている。けっこう激しい。	（SE：ザーッ）
B	387	柳沢家（外） 作業場の戸が開いており、 青木さんが玄関口に座っている。	（SE：ザーッ）
B	388	木材にカンナをかけるアキラの父の手の動き。	SE「シャッ、シャッ・・・」
B	389—A	手前でカンナをかける父。 仕事場の入り口は開け放してあり、表の面が見える。世間話にきた青木さん。入り口のたたきの所に座り、外の雨を見ながら。 こちらに振り向き。 父、カンナがけを休んで。 仕事の手を休め青木さんの方を見て。 母、お茶と菓子を乗せた盆を持って来る。	青木 「いつまで降るのかしら。 世の中不景気っていうのに、 お宅は忙しそうねぇ。」 父 「急ぎの仕事が入ってきて。 アキラまで手伝わせる始末ですよ。」
B	389—B	母、お盆を置く。	青木 「そういえば、島津さんに何か言われたんだって？」

		母	「ええ、早く電話を入れるようにって言われたのよ。」
B	390	父	「それで、あれを・・・。いや、刀を売り払って、電話を入れようと思ってるんですよ。」
	父、カンナをいじりながら。父、カンナを台において、奥の部屋へ向かう。		
B	391	青木	「備前長船って言ったっけ？」
	見送る母、青木。青木、お茶に手を出し、お茶を飲む。	母	「柳沢の家が昔サムライだったんですって。」
		母	「うちの人が刀を大事にしてきたので、手放さない方がいいって言ってるんだけど・・・。」
B	392—A	アキラ	「ただいま！」
	雨の中、帰ってくるアキラ。傘をたたむ。		
B	392—B	母	「ご苦労さま。」
	アキラ、傘を脇に立てかける。	青木	「アキラちゃん、えらいねえ。お手伝いかい。」
	アキラ、座る。	母	「アキラもこっちでおやつ食べなさい。」
		アキラ	「うん。」

B	392 —C	青木、膝をなぜながら。 アキラ、菓子を食べる。	青木 「こう雨が続くと、神経痛が出てきてイヤだねえ。」 母 「大丈夫なの？」
		一同、入ってくる父を見る。	父 「欲しがってる 社長がいるんですよ。」
B	392 —C	座る父。 手に、布でくるんだ刀を持っている。 父を見る母とアキラ。	
B	393	父、あぐらの上に包みを置く。 布を開く。	
B	394	アキラ、興味を引かれて身を乗り出す。	
B	395	父、アキラの視線に気付く。 刀を持ち上げ、アキラに差し出す。	父 「アキラは初めてだったな。持ってみるか？」
B	396	刀を受け取るアキラ。 じっと見入る。	父（ＯＦＦ） 「ちゃんと届けは出してあるけど、物騒なもんだから気をつけろ。」
B	397	アキラの見た目。 刀をサヤから柄にかけてＰＡＮ。	
B	398	アキラ、刀を持ち上げて、	アキラ 「すごく重いんだな。」

	持ち替える。 ゆっくりサヤから抜いてみる。						
B	399	抜いた刀。 手前にピントを合わせアキラの見た目。 向きを変えて刀を見る。 （キラリとハイライトが刃表に走る。）					
B	400	刀を見つめるアキラ。 そこへ父が声をかける。	アキラ 父（ＯＦＦ）	「サムライって、こんなので斬り合ってたんだ。」 「おい、もうよしな。」			
B	401	アキラ、父に刀を渡す。	アキラ 父	「うん・・・。」 「刀は魔物だ。 ついつい妙な気持ちになるっていうからな。」			
B	402—A	父、刀を受け取りそれを見つめながら。	父	「柳沢の守り神って思ってたんだが、生活の方が先だよな。」			
B	402—B	軒下から雨だれがポタポタ落ちている。					
B	403—A	作業場の入り口に座り込んだ４人。 入り口の外の通りには雨が降り募る。					ＳＥ：ザーッ。

		B	B
		404	405—A
（沈黙の間） 母、父の方に向かって。 青木さん、雨の降る表に目をやり、ため息まじりに。		外の通りより雨の降り続く。	ゴンの店（同日） 雨が弱くなってきている。 店の中でゴンが作業をしている。 傘をさした志津がやってきて立ち止まる。 ゴンが坂ビンを持って小走りで出てくる。
（静寂の中に雨の音のみ響く。） 母　「これは売らないほうがいいよ。戦争中も戦後もずっと我が家にあったんだもの。お金にはかえられないよ。」 青木　「そうだよねぇ。」		SE：（雨の音大きく）ザーッ。 （軒を叩く滴の音）	ゴン父（OFF）「おい、空ビンを裏にかたしといてくれ。」 ゴン　「ああ。」

		B
		405—B
		ゴン、反応して止まる。
志津　「あべくん！」 ゴン　「あっ。」		

B	405—C	ゴン、チラリと見て。 志津とわかり振り向く。 ちょっと当惑気味。	ゴン 「宮永・・・。」
B	405—D	数歩歩いてゴンに近付く志津。	
B	405—E	立ち止まって真剣な表情で。	志津 「・・・安倍くん、ちょっとお話があるの。」
B	405—F	ゴン、ちょっと焦った感じで。	ゴン 「な、なんだよ。」
B	406—A	盛夏 背景に真っ青な空と湧き立つ入道雲。	SE：(セミの声) ミーン、ミーン、 シャワシャワシャワシャワ。
B	406—B	堀端の通りを材木を積んだリヤカーを引いてアキラが行く。 短く濃い影の落ちる夏の午后。	SE：(セミの声) ミーン、ミーン、 シャワシャワシャワシャワ。
B	408	アキラ、立ち止まり、首にかけたタオルで汗を拭く。 公園の方を見る。	SE：拍子木の音 紙芝居屋のおじさん「よい子を助け悪人をこらしめるマー君の活躍。 また明日のお楽しみだよ。」
B	409	通り沿いの公園に紙芝居屋が来ている。 その中にれい子もいる。	SE：拍子木の音。
B	410	紙芝居屋の前の子ども達。	紙芝居屋のおじさん「ただ見はダメだよ。何か買ってね。」

	B	B	B	B	
	411	412	413	414	
何かを買うために並んでいる。	アキラ、れい子に気付く。 口に手をあてて呼ぶ。	れい子、兄の声に振り返り （あ、おにいちゃんだ！） （２人くらい別の子も反応） 手前に駆け出して来る。	れい子が駆けて来る。 アキラ、汗を拭き終え再びリヤカーを引く体勢に入りながら。	れい子、後ろに回る。 リヤカーを後ろから押しながら、楽しそうに話す。（重そうに）	
子供（ＯＦＦ） 子供（ＯＦＦ） 子供（ＯＦＦ） 子供（ＯＦＦ） アキラ	「何にする？」 「ソースせんべいちょうだい。」 「おじさーん。水あめ！」 「僕も！」 「おーい、れい子！」		れい子 アキラ	「お兄ちゃん、どこに行くの？」 「新井さんとこへ材料持っていくんだ。一緒に行くか？」	れい子 アキラ れい子	「いいよ。私ね、紙芝居ただ見しちゃった。」 「たまにはいいよ。おもしろかったか？」 「マー君の冒険ね。マー君が悪人をみんなやっつけちゃった。マー君強いんだよ！」

		B	415
	リヤカーを押して行くアキラとれい子の後姿からＰＡＮ。 真夏の光の下、広がる木場の風景。 遠くに入道雲。		（セミの声も遠く重なる。）
		B	416
	リヤカーを引くアキラの横顔。汗。 道の先に気付き、表情が変化する。		
		B	417
	アキラの目線。 道の先に白い帽子とワンピースの少女。（志津の姿）		
		B	418
	志津の姿の寄り。 入道雲と青空を大きく背景に、 さわやかな志津の姿。 （藤のバスケットをさげている。） 陽炎、ゆらゆら。		ＳＥ・・・（セミの声、遠く） ショワ、ショワ、ショワ・・・・・・
		B	419
	アキラ、それを見て思わず立ち止まり、 顔を上げる。		ＳＥ・・・（セミの声、遠く） ショワ、ショワ、ショワ・・・・・・
		B	420
	志津も足を止めアキラに気付く。 （２〜３歩かけて止まる）。	アキラ	「そうかあー。」 ＳＥ・・・（セミの声、遠く） ショワ、ショワ、ショワ・・・・・・

B	B	B	B
421	422	423	424
アキラ、アップ。 何も言い出せない。 （スッと肩の力が抜けていく動きを 入れる。）	志津、アップ。 戸惑い。 （こちらは肩に力の入る動き。）	堀端の通り。 向き合って立ち止まっているアキラと志津。 ほぼ対岸からのロング。	志津、アップ。 張りつめた志津の表情。 一瞬目を落としてから、何かを言おうと顔を上げた瞬間、 後ろで大きく鳴るクラクション。 びっくりする志津。
SE・・・（セミの声高鳴っていく。） ショワ、ショワ、ショワ・・・・・・	SE・・・（セミの声高鳴っていく。） ショワ、ショワ、ショワ・・・・・・	SE・・・（セミの声高鳴っていく。） ショワ、ショワ、ショワ・・・・・・	SE・・・「パッパー！！！」 （トラックのクラクション）

		車(トラック)が手前を通過していく。 アキラ、アップ。 沈黙に耐え切れなくなったアキラ。視線をそらしてしまう。	SE・・・(セミの声、再び遠く) ショワ、ショワ、ショワ・・・・・・
B	427	それを見た志津も目を落とす。	SE・・・(セミの声、再び遠く) ショワ、ショワ、ショワ・・・・・・
B	428 —A	アキラ、アップ。 目を落としたままのアキラに後ろのれい子が声をかける。 アキラ、ビクンと反応。 アキラ、れい子の方にちょっと振り向く。	SE・・・(セミの声、再び遠く) ショワ、ショワ、ショワ・・・・・・
		れい子(OFF)「お兄ちゃん!」	
B	428 —B	れい子、アップ。	れい子　「お仕事、お仕事。早く行こうよ!」 アキラ　「うん。」
B	429	アキラ、れい子の方を振り返った状態から、志津と目を合わせぬようにまた前を向き、 グッと見を沈めて前傾姿勢を取り、リヤカーを引き始める。	

			（少し前に歩みだすまで。）
B	430	立ち尽くす志津の脇を、リヤカーを引いたアキラが通り過ぎていく。（アキラがフレームアウトするかしないかまで。）	
B	431	志津、目を落としたまま、リヤカーの音が横を通り過ぎて行くのを聞いている。 志津、面を上げ、手前に向かって厳しい顔で歩き出す。 ＳＥ（リヤカー）カラカラカラ・・・・・・	
B	432	すれ違い、離れて行く志津とリヤカー。（ロング）	
B	433	リヤカーを引くアキラの足。 立ち止まる。（完全に止まるまで。）	
B	434	アキラ、目を落としている。 れい子「？」の表情。 首の手ぬぐいで汗を拭きながら、後を振り返る。	
B	435	川辺の道を振り返らずに歩み去っ	

			て行く志津の後ろ姿。
B	436	その志津をしばし見やったアキラ。 手ぬぐいを放し、前を向く。	
B	437	アキラとれい子、リヤカーを再び引き始め、リヤカー動きだすまで。	
B	438	駄菓子屋の前、リヤカーを止めてベンチに座ってアキラとれい子がアイスキャンディを食べている（日中）。 リヤカーの中の木材は渡した後で空。	SE・・・（セミの声遠く）ミーン、ミーン、ショワ、ショワ、ショワ・・・・・・
B	440	アイスキャンディを口の中で転がしながら遠くを見ているアキラの目。 れい子もアイスキャンディを口に放り込んでご満悦。	SE・・・（セミの声遠く）ミーン、ミーン、ショワ、ショワ、ショワ・・・・・・
B	441	ボーッと遠い目のアキラ。 頬の中でアイスキャンディを転がす。	SE・・・（セミの声遠く）ミーン、ミーン、ショワ、ショワ、ショワ・・・・・・
B	442	そのアキラの見た目。	SE・・・（セミの声遠く）ミーン、ミーン、

		真っ青な空に入道雲がわき上がっている。	ショワ、ショワ、ショワ・・・・・
B	451	（夏）夕方前の空からＰＡＮダウンすると、深川八幡の縁日が見える。 浴衣姿の人たちが行き交う縁道。	ＳＥ（縁日のおはやし） ＢＧＭ：深川音頭
B	453	金魚すくいの前に浴衣の人々。 （ＰＡＮゆっくり）	ＳＥ（縁日の雑踏、おはやし大きく。以後ずっと続く。）
B	454	風車や紙風船売り。 （ＰＡＮゆっくり）	
B	455	その歩道を二人並んで歩くアキラとハカセ。 手前に屋台の棚、その向こうを通過していく。	
B	456	アキラとハカセ、並んで歩いている。 ハカセ、ちょっと目を落として、 アキラ、ハカセの方を向いて、	ハカセ　「あの時、文房具屋に行かなくてごめんな。」 アキラ　「何だよ、今頃突然。」
B	457	ハカセ、表情アップ。	

	沈んだ思い詰めた顔。	ハカセ	「僕、みんなを裏切ったみたいで、アキラには一度」
B	458—A		ハカセ（OFF）「あやまりたかったんだ。」
	アキラ、そのハカセの表情を見て、自分も目を落としてトツトツと語る。	アキラ	「僕だって本当はやめなきゃって思ってたんだ。ゴンを止める勇気がなかったんだ。」
B	458—B	ハカセ	「アキラ、国立は受けないのか？」（間）
	ハカセのアップ。		
B	458—C	アキラ	「僕は何になるかも決まってないし、江東中に行くよ。」
	アキラのアップ。		
B	459—A—1	ハカセ	「一緒に受けて欲しいなあ。僕一人だとみんなと離れていっちゃうみたいでなぁ。」
	縁道を行く2人の後姿。ハカセ、つぶやくように。		
B	459—A—2		
	手水舎の所。ゴン、テル、ヨシオの後ろ姿。親子連れが歩いている。アキラとハカセがIN。		
B	459—A—3		
	手水舎の所。ゴン、テル、ヨシオ。水を飲んでいるゴン。		

		後ろを通り過ぎるハカセとアキラ。気づくヨシオ。	ヨシオ「あっ！」
B	459—イ	ハッとなるハカセ。立ち止まる。送れてアキラも立ち止まる。 INするゴン達。	ヨシオ「おいハカセ！」
	—ハ	一歩送れてゴン。	テル「文房具屋は行かないで、八幡さんには来るのか？」（歩きながら）
B	459—ロ	振り向くアキラとハカセ。 （気まずい感じ） INするゴン達。	ハカセ「あっ…。」
B	459—D	一歩出るアキラ。 ヨシオ、からかうように。	アキラ「テル、やめろよ。」 ヨシオ「ハカセ、勉強ばかりやってると頭おかしくなるぜ。」
B	459—E	下を向くハカセ。 アキラ、ゴンの方も向き	アキラ「もういいじゃないか。」 テル「ケッ。」 アキラ「ゴンも！こないだのことは僕達が悪かったんだから！」
B	459	ゴン、目をそらし。	ゴン「うるせー。」

	—G	ゴンに寄り。 ゴン、アキラに目をあわせない。 チラッと一度アキラを見て、 またすぐ目をそらす。	
B	459—H	ゴンの顔を見つめるアキラ。 そこに横合いから声が飛ぶ。	男の子（OFF）「あいつだ！あいつ。」
		そちらに目をやるアキラ。	
B	459—I	振り返るゴン越しに中学生一人（ツギ当て学ラン）を交えた6人の生徒。 一人がゴンを指差している。	男の子　「木場小の安倍だ。」
B	459—J	俯瞰。 五人の小学生、アキラたちを取り囲むように展開し、その中央を中学生がゆっくり歩いてくる。	
B	459—K		男の子①　「お前ら万引きしてとっつかまったんだろ。」 中学生　「八幡さんへまた万引きしにきたのか。」
B	460	ゴンたち罵声を聞いているが。 アキラ、途中でゴンの様子をうかがうように視線をやる。	男の子②（OFF）「おい、何とか言え。」 男の子①（OFF）「もうとったんだろ。ここへ出してみろ。」

		ゴン、向き直り、 アキラ、ちょと焦り。	ゴン	「八幡さんへ来て何が悪いんだ。」
B	461	中学生、アップ。 血が頭にのぼり表情が変わる。	中学生	「なに、このやろう。やる気か。」
B	462 —A	ゴン、身を乗り出し、 テルは身じろぐ。	ゴン	「やってやっから！」
		アキラも身を乗り出し、	アキラ	「ゴン！」
		ゴン、後ろのアキラたちへ テル、後ずさる。	ゴン	「お前らは帰ってろ。」
B	462 —E	ゴン、小学生③、④。 ＩＮする中学生。	中学生	「ついて来いよ…。」
		ゴンに小声で話す。 中学生についていく小学生③、④。 ゴンをにらみながら、ＯＵＴまで。		
B	462 —F	神社の裏。 アキラ達と中学生達が対峙している。	＝ヨシオ＝	「ゴンちゃん、やっつけちゃえよ、そんなやつ。」
B	464	中学生、グッとにらんでから、 ダッとパンチを繰り出してくる。		

B	465	殴り込んで来た中学生を、ゴン、ヒラリと体をかわして、体ごとぶつかって行き、二人とも倒れ込む。	
B	466	ゴン、中学生を押さえ込んだまま身を起こし、マウントポジション。 ガツンと中学生を殴る。 中学生も反撃して殴り返すが ゴン、グッと起き直り、さらに中学生にのしかかり、ほとんど馬乗りになりながら、パンチを繰り出す。	SE「バキッ」 SE「ビシッ」 SE「バシッ」
B	467	中学生を殴り続けるゴン。 その怒りにかられた表情。	SE「バシッ、ビシッ」
B	468	中学生の形勢が不利なのを見ていた仲間の小学生①と②、顔を見合わせ、ダッと助太刀に飛び出す。	
B	469	ゴンに向かって少年たちは襲いかかる。	
B A	470	おじけづくテルとヨシオ。	テル「ゴ、ゴンちゃん…。」 ヨシオ「あ…。」

B	470 B	それを見たアキラ、思わず止めようと一歩踏み出すが、 その後ろに小学生の一人④が回り込み、後ろから羽交い絞めにする。	アキラ アキラ	「ゴン！」 「はなせよ！」	
B	471	ゴン、地面に引きずり倒され、顔を地面に押しつけられる。 押さえつけられながらもジタバタともがきながら目を上げるゴン。			
B	472	押さえつけられているゴンの向こうで中学生が起き上がる。 中学生、ゴンの方を見て、 中学生、立ち上がる。	中学生	「この野郎。」	
B	473	中学生、立ち上がるとゴンの方を向き近づいて行く。			
B	474	あおりの中学生（ゴンの見た目気味） 立ち止まる動きからニヤリとして、グッとケリを入れる。 （直接見せずに表情と動きだけで見せます。）	中学生	「フンッ！（息遣い程度）」	

B	475	ケリを受けたゴンの表情。 苦悶の表情。	ゴン　　SE・・・ボグッ テル（OFF）　「グッ。」 ヨシオ（OFF）「ゴンちゃ～ん。」 ゴン　　「ゴンちゃ～ん。」 中学生（OFF）「やれ！」 小学生たち（OFF）「おーっ！」
B	476	中学生が下がると、小学生たちがゴンにケリを入れる。	SE・・・ドカ！バキ！ゲス！・・・
B	477	アキラ、羽交い絞めをほどこうともがきながら	アキラ　　「ゴン！」 ゴン（OFF）「おまえら、手出しすんな！」
B	478	袋叩きのゴンに手助けもできず遠巻きに身をすくめるテルとヨシオ。	
B	479	蹴られているゴン。 頭から血が流れている。 蹴られるたびに体に衝撃。 ゴン、腕を上げ体を丸め、守りの体勢に入る。	SE　「バシッ、ドカッ、ボグッ・・・。」

B	480	真上からの俯瞰。 ケリを喰らいながら体を丸めて行くゴンの姿。	SE・・・バシッ、ドカッ、ボグッ・・・
B	481	ゴンを蹴り続ける少年たちの表情。 そこへオフで中学生。 少年たちそれに気付き蹴るのをやめて、 上気した顔を上げる。 それから見下した目でゴンをながめ、振り向き去って行く。	SE・・・ドスッ、バシッ・・・ 中学生（OFF）「おい、その辺でやめとけ。」
B	482	中学生を始め、少年たち、次々と去って行く。 ボロボロで取り残されて転がるゴン。	
B	483	アキラを押さえてた少年も放して去る。	
B	484	倒れているゴン、アップ。 ゴン、目を開く。	

B	485	呆然と立ち尽くすアキラの前でゴンが身を起こす。 （中腰くらいまで。）	
B	486 A	切り返しで立ち上がったゴン。 後ろで声をかけられずにそれを見ているアキラ。 ヨシオとテルが駆け寄って来る。 ゴン、ムッツリと振り返りながらそのまま立ち去る。	テル 「ゴンちゃん。大丈夫？」 ゴン 「どうってことない。」
B	486 B	アキラ、去るゴンの背中に呼びかける。	アキラ 「ゴン！」
B	487	ゴン、ピクッと止まってゆっくりとアキラの方を振り返る。	
B	488	アキラ、声をかけたは良いが、かける言葉が見つからない。 やがて体の力を抜くように少しうつむき、上目遣いになる感じ。	
B	489	ゴン、ちょっと物言いたげな視線を	

	B	490	そのゴンを呆然と見送る他の４人。 ＳＥ（バックの祭ばやしの音、ちょっと大きくなってくる）	送るが、やがて目を落とし、そのまま振り返り歩み去る。 （２〜３歩奥まで）	
	B	500	アキラ、そのゴンを黙って見送っている。		
	B	501	柳沢建具店の前の通り。 （かなり薄暗くなり街灯もついている。） 建具店の前の通りに縁台を出して浴衣姿の和子とれい子が座っている。		
	B	502	和子はウチワでパタパタ。 れい子は足のゲタをブラブラ。 （あまり楽しそうでなく。） れい子が何かに気付き、それに次いで和子もこちらを向く。	れい子 和子 れい子	「お兄ちゃん、何してるんだろう。」 「れい子は、その女の子のこと知ってるの？」 「うん、知ってるよ。」	れい子、縁台から立ちこちらに走っ

	B	B	B	B
	503	504	505	506
て来る。和子も立ち上がる。後で店の中から母も姿を現す。	道の向こうからしょげて歩いて来る アキラの方へ、手前かられい子が駆け寄って行く。	アキラ、その声に顔を上げる。	アキラ、れい子と和子が来るのを見て 歩みを止める。	和子がれい子に続いて近づいて来ながら。	普通に聞いていたアキラ	姉の言葉を聞いて(一通り聞いてから)その内容を理解すると目を見開く。	後ろから母も近づいて来て立ち止まりつつ、
	れい子 「お兄ちゃーん！」	和子 「アキラ、大変よ。坂本先生からさっき連絡があってね・・・。」	和子（ＯＦＦ）「あんたの同級生の宮永志津って子が、昼頃湘南の海で溺れて亡くなったんだって。」		母 「かわいそうにねぇ。親戚の家に一人で泳ぎに行ったんだって。」

B	507	呆然とするアキラ、アップ。	
B	511	泳ぐ志津、奥に砂浜。 イメージ止め絵。	
B	512	ハッと目を見開く志津。 イメージ止め絵。	
B	513	志津の目線、アオリ波。 イメージ止め絵。 ※カメラアニメーションのみ	
B	514	波に飲まれる寸前の志津。 イメージ止め絵。 ※カメラにメーションのみ	
B	508	蚊取り線香。	
B	509	居間、俯瞰。 仰向けに手足を投げ出して横たわり 呆然と天井を見ているアキラ。	
B	510	呆然として目の焦点も合わないアキラの表情。真上から。	
B	518	（ここからフラッシュバック風に） 黒板をバックに初めましてのお辞儀から上気した顔を上げる志津。	

B	519	教室で初めて自分の席に向かって歩いて来る志津。 （アキラの目線、あおり気味）			
		手前まで来た所でアキラと目が合い目礼。チョコンと頭を下げる。			
B	520	音楽室、坂本の伴奏で歌う志津。			
B	521	肉屋前、母親に話しかけている志津。			
		その横顔から、こちらを振り返って明るく話かける笑顔。			
B	522	（朝）校門前の通り。			
		歩く志津。 となりのアキラに話しかけている。			
B	523	合唱大会不参加を聞いた時の志津の衝撃を受けた表情。 （目が合った瞬間）			
B	524	白い帽子、ワンピース。青空をバックに川辺の道を歩いて来る志津。			
		アキラに気付いて顔を上げて立ち			

			止まる志津。ポニーテールが風に揺れる。 悲しそうな表情になる 真っ青な海と空の背景にオーバーラップ（美しく） 志津しだいにダブラシになってゆきながら遠ざかる。風にスカートや髪がなびいている。 そして、志津が消えて美しくたゆたう海面と空のみになる。 ＳＥ（海鳴りの音がフェイドインしてくる）
Ｂ	５２６	アキラ、涙があふれている。 涙がツーと流れる。	
Ｂ	５２７	アキラ、手をあげて涙をぬぐう。	
Ｂ	５２８	（真夏の日中） 花輪の並べられた志津の家の門の前の風景。 ＳＥ：「チーン」読経。 ＳＥ（セミの声）	
Ｂ	５２９	弔問客が入って行く。 宮永家。玄関口へ（外）。	

		扉はすべて外している。	
B	530	祭壇に飾られた志津の遺影（白黒）。	SE（読経の声）
B	531	親族席。居並ぶ両親。 母親は目をおさえたりしている。	SE（読経、泣き声）
B	532	祭壇のある部屋。 居並ぶ親族の前で焼香を上げる人。	SE（読経、泣き声）
B	533	玄関の所で焼香を待つ木場小の面々。 アキラは学級委員長なので先頭。 先生たちは喪服。子供たちは私服。	SE（読経、泣き声）
B	534	待っているアキラの無表情な顔。	SE（読経、泣き声）
B	535	涙を浮かべながら焼香する坂本。 数珠をもって合掌。	SE（読経、泣き声）
B	536	焼香をあげるアキラの手。	SE（読経、泣き声）
B	537	合掌するアキラ。 アキラ、顔を上げる。	SE（読経、泣き声）
B	538	白黒の遺影の中でほほえむ志津。	SE（読経、泣き声）
B	539 A	入道雲。	
B	539	棺をあけて皆が花を入れている。	SE（読経やんで、泣き声高まる）

	B	540	先生たちが花を添えて、立ち上がって外へ出る。 アキラ、少し前へ出る。（座ったまま）	SE（すすり泣く声）
B	B	541	棺の中の志津を見下ろすアキラ。	SE（すすり泣く声）
B	B	542	棺の中、花に包まれ安らかに眠る志津。	SE（すすり泣く声）
B	B	543	アキラ、棺を見下ろしている状態から。 片手一杯の花を持ち上げ見つめ、それからまた志津に目をやり、棺に花を入れる。	SE（すすり泣く声）
B	B	544	胸の上に組まれた志津の手。 その上にアキラが手に握った花を置く。 アキラがその手を引こうとする瞬間、	
B	B	545	（志津の手、寄り。） アキラの手が偶然にその手に触れ、	

	ビクンとその冷たさに驚き手を引く。		
B	５４６ ビクッと体をおこす。 衝撃を受けたアキラの表情。 思わず後ずさる。 なんともいえない表情のアキラにＴ・Ｕ	志津の父（ＯＦＦ）「まったく、	
B	５４７ 出棺。 宮永家の玄関前の広場。 霊柩車を取り囲む参列者。 その中央で両親が並んでいる。	志津の父（ＯＦＦ～ＯＮ）「突然のことで頭が混乱しています。」	
B	５４８ 遺影を持つ父。 位牌を持つ母。	志津の父　「志津が死んだなんて、とても信じられないんです。」	
B	５４９ 母の持つ遺影の志津。 ゆっくりとＴ・Ｕ。	志津の父（ＯＦＦ～ＯＮ）「志津は歌の好きな明るい娘でした。親の欲目かもしれませんが、本当に手のかからない素直な子でした。」	
B	５５０ 父の話を聞く木場小の人々。	志津の父（ＯＦＦ～ＯＮ）「転校して、いい先生といいお友達に出会えたことを心から喜んでいたんです。」	

B	551	目を落として話を聞いているアキラ。 「合唱大会を楽しみに」と聞いて顔を上げるアキラ。	志津の父（OFF～ON）「合唱大会にも選ばれたって、とても楽しそうに話してくれました。」
B	A 552	志津の父、うつむき気味に、	志津の父　「残念です。夢がいっぱいあったのに・・・。」
B	B 552	志津の父の隣で耐える母。 （間）	（間） 志津の父（OFF～ON）「しかし、考えてみれば」
B	C 552	顔をあげ、自らを励ますように。	志津の父　「志津は短い一生を精一杯生きたのかもしれません。 あの子の魂は、
B	553	PANすると、泣きながら話を聞く参列者の後方、電信柱の影に隠れるようにゴンの姿がある。	志津の父　「天国に行って、好きな歌でみんなを楽しませてくれることでしょう。」
B	554	まっすぐに見つめるゴンの表情。 額に傷。 目がうるんでいる（涙はない）。 T・U	志津の父（OFF～ON）「どうか皆さん、志津のことをいつまでも忘れないでやってください。」
B	555	最後のあいさつをして深々と一礼する志津の父と母。	志津の父　「本日はお暑い中をご参列いただきまして本当にありがとうございました。」

	聞いていた人々の各所に泣き出す人々の動き。	参列者（すすり泣きの声）	
B	556	（日中） 夕日をキラキラと反射して輝く海。 その沖合いをタンカーが行く（望遠）。	SE「ポォーッ（汽笛遠く）」
B	557	見晴らしの良い広場の脇の材木の上に思い思いに座ったり、寄りかかったりしているゴン、テル、ヨシオ、そしてアキラ。	
B	558	（太陽は背中の方。逆光）	テル　「宮永は突然やって来て突然死んじゃったな。」 ヨシオ　「あいつが歌手になったら俺、絶対ファンになってやったのに。」
B	559	アキラ横顔。遠くを見たまま。 自分の手を見つめ、感触を思い出しながら。	アキラ　「宮永は寝てるみたいだった。」 アキラ　「でも、手が氷のように冷たかった。」
B	560	アキラの言葉を黙って聞いているゴン。 遠くを見つめたまま。 逆光気味。	アキラ（ＯＦＦ）「人が死ぬってあんな風になるんだ。」

B	561	アキラ、まだ手を見つめたまま、	アキラ 「魂も死んじゃうのかな。」
B	562	ヨシオが下から顔を振り向け、 テル、静かな口調で	ヨシオ 「魂が生きてたら、また歌手になりたいって言うかな。」 テル 「宮永のやつ、合唱大会をほんとに楽しみにしてたんだ。」
B	563	アキラ、顔を上げてどこか遠くを見るように、	アキラ 「魂が生きてたら、きっと僕たちを怨んでいるだろうな。」
B	564	そんなアキラをじっと見つめるゴン。 T・U	
B	565	（ホワイトイン） ゴンの回想の志津。 ゴンの店の横の路地。 ゴンに強く言い寄る志津。	志津 「安倍くんでしょ？安倍君がみんなを―。」
B	566	その志津に反論するゴン。	ゴン 「うるせーな。お前には関係ないだろ。」
B	567	のりだす志津。	志津 「柳沢くんたちを巻き込まないで―。」
B	568	返す言葉を失ったらしいゴン。 捨て台詞を残すように身を翻す。 歩み去って行くゴンの後姿。	ゴン 「知ったこっちゃねえよ！」

			ちょっと足を止める。
B	569	T・B（カットいっぱい）。悲しいような、怒っているようななんともいえない志津の表情。	
		（回想ここまで）	
B	570	（ホワイトイン）現在のゴンの姿に戻ってくる。空を見つめ、思いつめた表情。	
		ゴン「おい、アキラ、」	アキラの方を見て、
B	571	ゴン「学校に行って校長に言え。大会に参加させろって言え！」	アキラ、その声に振り返る。
B	572	アキラ「僕が？　僕が言えるわけないだろう。」	アキラ、ちょっと視線そらして、
		ゴン（ＯＦＦ）「いや！」	ゴン、力強く、
		アキラ「え？」	アキラ、びっくりして見直す。
B	573	ゴン「お前が言うんだ。」	ゴン、立ち上がる。
		ゴン「校長に参加させてくれって頼むんだ！」	（フォローＰＡＮ）
B	574		力説するゴンを呆気にとられて見ているアキラたち。
B	575		夕陽の逆光の中、決意に満ちたゴン

	A	の表情。 （じわＴ・Ｕ） （フレームアウト）
B	575 B	見つめるアキラ。 （Ｔ・Ｕ） （フレームアウト）
		ＳＥ　「ポォーッ（汽笛）」

S	C	【テロップ】 昭和３１年（１９５６年）秋 Ｆ・Ｏ後、 空からＰＡＮ ＤＯＷＮ。 学校。
音声	576	（ＳＥ：チャランチャラン）
C	577	滝井　（ＯＦＦ）「はい、比っていうのは中学でも出てくる大事な項目なので、
C	578	滝井　「しっかり復習して置くように。」

			（間）
C	579	志津の机に写真。	滝井　「えー、今日は授業の初めに、
C	580	志津の写真からT・B。	滝井　（OFF）宮永にお別れしたけど・・・」
C		ゴンの名前に反応するアキラ。	滝井　（OFF）「実はもうひとり、一緒に勉強できなくなった人がいる。安倍権治だ。」
C	581	弱T・U。（カットいっぱい）	滝井　（OFF）「実は安倍は立川というところに休み中に引越しをしたんだ。立川は米軍基地の拡張で反対運動が起こっているので、知ってる人もいるだろう。」
C	582	滝井、手紙を持ち上げて。	滝井　「皆にお別れをと言ったんだけど、ガラでもないって言ってな・・・。無理矢理手紙を書かせた。読むぞ。」
C	583	アキラにT・U。	滝井　（OFF）『父ちゃんが立川で飲み屋をやるので、俺もついて行く』。」
C	584	話を聞いている生徒たち。PAN。	滝井　（OFF）『オレがいなくなって、6年4組はもっと良いクラスになってくれ。安倍権治』。」
C	585	滝井、手紙を下ろす。	滝井　「ずいぶん短いけど、安倍らしいわな。あいつも戦争でお母さんを亡くしてお父さんの店を手伝って、大変だろう。宮永と同様、あいつも6年4組にいたことを覚

	C	C	C	C	C	C	C	C
	586 A	586 B	587	588 A	588 B	589	590	
	ヨシオ、淋しそうに。 カット尻、目線を流すヨシオ。	テル、さみしそうに目線を少し下げている。	アキラ、ゴンの机を見る。	ゴンの机にT・U	アキラ、下を向く。	（O・L）6年4組教室内 合唱のメンバーの女の子のところに紙を持って行くアキラ。 2人の女の子、アキラに引いている。 アキラ、頭を下げてたのみ込む。 女の子、ちょっと反応あり。	（O・L） 廊下。 他のメンバーにも署名を頼んでいるアキラ。	
えておこうな。」	ヨシオ 「ゴンちゃん、俺たちには何も言ってくれなかった・・・。」	テル 「（無言）・・・。」						

	C	C
	591	592
女の子はことわり歩きはじめる。 がっくりするアキラ。	（O・L） 学校校庭（外） 頭を下げて頼んでいる（わびている）アキラ。 （間） 顔を上げて必死で頼む。 男の子の一人Aがアキラの真剣さに気持ちが揺らぎ始めて、アキラに声をかける。	（O・L） アキラ、その男の子の方を見る。 他の男の子も近づく、アキラ説明する。 力説するアキラ。 カットいっぱいT・B

C	593	署名をＰＡＮ。	
C	594	校長室の中。 校長、署名状を見ている。 校長、顔を上げて。	校長 「これは何ですか？」 「ハイ。僕のせいで迷惑をかけてしまって・・・。皆にあやまって校長先生へのお願いを書いてもらいました。」
C	595	直立不動のアキラ。（緊張している）	アキラ
C	596		校長 「君の名前がないが・・・。」
C	597		アキラ 「僕には一緒に参加する資格がありません。」
C	598	署名を見つめる校長。	校長 「・・・これは？」
C	599	『宮永志津の魂』の部分を指で指す。	
C	600	アキラ、少し乗り出し。	アキラ 「僕が書きました。」
C	601	校長、再びアキラを見て。	校長 「君たちの気持ちはわかりましたが、先生がたが何と言うか。」
C	602		校長 「実は坂本先生からもずっと合唱大会への参加を言われているんだが、反対の先生も多いんですよ。」
C	603	神妙な顔のアキラ。	アキラ 「・・・。」
C	604	夜、職員室前の廊下。 職員室のみ明かりがついている。	

C	605	机の上に山盛りのシケモク。 （職員室内）	
C	606	6年の先生達と校長。 重〜い雰囲気。 滝井、タバコをくわえている。 坂本は背を向けている。	
C	607	校長と水野。	校長 水野	「・・・・。」 「・・・・。」
C	608	滝井。	滝井	「・・・・。」
C	609	坂本。	坂本	「・・・・。」
C	610	秋山、顔をあげて切り出す。	秋山	「やはり私は、一度決まったことを変えるのはよくないと思います。父兄や商店街の人達にも説明がつかないでしょう。」
C	611	校長、水野に向いて。	水野 校長	「でも、署名の最後に『宮永志津の魂』となっているのは辛いなあ・・・。」 「宮永が大会に出られなくなってがっかりしたまま死んでしまった。 柳沢はそのことを考えると、 いてもたってもいられなかったんでしょう。」
C	612	滝井、顔をあげて。	滝井	「いやー、私は柳沢がよくこんなことをしたなって思ってます。死んだ宮永にはもちろん、選

			タバコを消して話し始める。
C	613		
C	614	険しい表情で聞いている坂本。 （T・U）	
C	615	（少し間） セリフと共に勢いよく立ち上がる。 坂本、皆の方を向き、強い口調で。	
C	616	一歩前に出て。	
C	617	先生達、坂本の勢いに気圧される。 校長、とりなすように。	
C	619	校長の寄り。	
C	620	座る坂本。	

		ばれたみんなにも責任を感じての行動だと思います。」
秋山		「みんな宮永が死んだことで過剰な反応をしていると思います。 そもそも今、童謡や唱歌を歌うことに、そんなに意味があるんでしょうか？」
秋山	（OFF）	「時代はどんどん変わり、経済もますます復興していく。 昔の歌にうたわれた自然や人々の生活も、今はかなりなくなっているでしょう。」
坂本		「だからこそ！」（SE：ガタッ）
坂本		「童謡や唱歌に込められた」
坂本		「日本語の美しさや日本人の心を大切にしなければと思うんです！」
4人		「・・・。」
校長		「いや、いろいろ意見をありがとう。 私は校長として改めて 合唱大会への参加を申し出ようと思います。」
校長		「万引きや一人の生徒の死という不幸なことがあったけど、子供達がそれを真剣に受け止め、」
校長	（OFF）	「一つの目標に向かって力を合わせようと志して

	C	C	C	C	C
	621	622	623	624	624 B
		校庭ＰＡＮ 子供たちと坂本がいる。	坂本、子供たちに、大会に出られることを嬉しそうに報告する。 ※アキラの表情がしずんでいる。	大喜びの子供たち。	スタート、坂本。 にこやかに微笑んでいる。 少し顔を上げて、 子供達（アキラ以外）、先生の方を見る。 （坂本、アキラの方を見て）
いる。私はその気持ちに打たれました。」	校長	ガヤ ガヤ	坂本	子供たち 子供たち 子供たち 子供たち	坂本 ど、一番最後に歌うんだって」。 坂本
「あとの責任はすべて私が負いますので・・・。もちろん柳沢君にも参加してもらいます。」		「ねえ、何何。」 「何があったの？」	「色々なことがあったけど、改めて大会に出ることになったのよ。」	「やったー！」 「ワー！」（などアドリブ） 「頑張ろうぜ。」 「やりましょう。」	「特別参加ということで順位はつかないんだけ 「柳沢君とみんなで書いてくれた署名が力にな

			C	C	
			624	624	C
アキラ、先生の方を見る。 子供達もアキラの方を見る。	真剣に聞いている子供達をＰＡＮ。	（間） アキラ、反応がないのでやるせなく目線を落とす。	D		
「え！」と顔を上げるアキラ。	アキラを見つめる子供達。	満足げにうなずく坂本。			
アキラ「ありがとう、みんな」みたいな表情になる。（そこにＴ・Ｕ）					
ったのよ。」	坂本　（ＯＦＦ）「だから柳沢君にも大会に出てもらいましょう。」	坂本　（ＯＦＦ）「みんな、いいよね？」	子供Ａ　「いっしょでいい。」	子供達　「いっしょにやろうぜ！」 「そうよ、そうよ。」 「いいよ。やろう。」 「いっしょにやろうよ。」 ＯＮ～ＯＦＦ。（などアドリブ。）	

C	627	引き（俯瞰で坂本と子供達） 元気いっぱいにうなずく子供達。 （間）	坂本 全員	「練習の日もそんなに取れないけど、一生懸命やろう。 なくなった宮永さんの分まで頑張ろうね！」 「ハイ！」
C	628	別の日。（9月8日） 放課後、音楽室の外。	坂本	（OFF）「まず基本をやります。」
C	629	音楽室（内）。 机は後ろへ寄せて、中を広くしてある。	坂本	「練習の結果をみて、曲目はみんなで考えましょう。」
C	630	子供達、元気よく返事をする。	子供達	「はーい。」
C	631	（O・L） 別の日（9月10日） 生徒。		
C	632	生徒達の発声練習。		
C	633	生徒の前を、リズムを取りながら歩く 坂本。 カメラ、先生の動きに合わせてFOLLOW		
C	634	（O・L）		

		放課後。（屋上を俯瞰） 雨が降っていて、午後だが暗い。 音楽室に光。	（ＳＥ：雨の音）
Ｃ	６３５	音楽室。 ピアノを弾く坂本の手。（ＵＰ）	
Ｃ	６３６	歌う子供たち。	
Ｃ	６３７	ピアノのまわりで練習。 ピアノを弾くのをやめて手をおろす坂本。	
Ｃ	６３８	坂本、肩を落とす。	
Ｃ	６３９	音楽室。（アオリ） 蛍光灯がついている。	
Ｃ	６４０	居残り組が練習している。 アキラ、ハカセ以外は女の子。 ＰＡＮ。	
Ｃ	６４１	しかめっ面の坂本。	
Ｃ	６４２	『ダメ～！』という感じでダメ出しをする、鬼のごとき坂本。	
Ｃ	６４３	気を落としてため息をつくアキラ	

			たち。
C	644	柳沢家の横の路地。 れい子がままごと遊びをしている。 PAN。	
C	646	葉っぱの上に小石をのせる。 八ツ手の葉っぱの上に座っているれい子。	れい子 「はい、お姉ちゃん。」
C	647	（A・C） 続けて女の子の人形の前にも石を置く。	れい子 「はい、お兄ちゃん。」
C	648	体を起こすれい子。	れい子 「お姉ちゃんもお兄ちゃんも、お父ちゃんみたいに忙しくなっちゃった。」
C	A 649	柳沢家内、仕事場の神棚。	（SE）パン、（拍手）
C	B 649	拝んでいるアキラの父。 柏手をする。 一礼。 体を起こす。	（SE）パン
C	649	背中を向けている父。	

		廊下からＩＮする母。 振り向く父。 母、立ち止まる。	母 母	「（歩きながら）おとうさん。」 「（立ち止まって）今日は秋分の日なので、旗を出しておいてください。」			
C	649 D	父、うなずく。 歩き出す父。ＯＵＴギリギリまで。	父	「ああ、やっとくよ。」			
C	649 E	文化の日。 柳沢家の並びに日の丸を掲げている。 ＰＡＮ。					
C	650	仕事場（内）。 父が作業している。					
C	651	（ＡＣ） 定規を使って、板に線を引いている、父の手。					
C	654	大家の島津が遠くから呼ぶ。 父、大声で答える。 奥に向かって。	島津 父 父	（ＯＦＦ）「柳沢さん、電話だよ。」 「はい、すみません。」 「おい母さん、電話だ。手が空いてたら出てくれないか。」			
C	655	割烹着で手を拭きながら	母	「はーい！」			

		台所から応える母。	
C	656	（外）島津家の表札。	母　（ＯＦＦ）「ありがとうございました。」
C	657	島津家（内） 受話器を置く母の手。	（ＳＥ『チン』）
C	658	島津。お茶を飲んでいる。 母、たたきに立っておわびをしながら	母　「本当にいつもすみません。刀を売らないで、何とかやりくりで電話を入れられそうです。」
C	659		島津　「祭日も仕事なんだねえ。でも電話が入れば商いだってもっとうまく行くさ。」
C	660	母、申し訳なさそうに。	母　「本当に島津さんには甘えてしまって。」
C	662	（Ｏ・Ｌ） 夜。 職員室前の廊下。	
C	663	職員室内。 坂本だけが残っている。	
C	664	坂本、疲れている表情。 校長ＩＮ。	校長　（ＯＦＦ）「坂本先生、」
C	665	坂本なめて校長。	校長　「実は、合唱大会のメンバーで、

（ＳＥ：玄関の引き戸の開く音『ガラガラ』）

			4組の杉浦と2組の寺井がやめたいって 言っているんです。 他にも練習で帰りが遅くなるって」
C	666	坂本の顔。	「苦情がいくつか出ていまして。」
			坂本　「二人とも国立中の受験組です。仕方がないですね。」
C	667	校長、坂本の隣の椅子を 引き出して座る。	校長　「秋山先生なんかが、また問題にすると厄介ですからね。 生徒たちとの信頼関係を作ることが大切です。」
C	668		坂本　「ご心配をかけます。よく考えてみます。」
C	669	椅子に体をあずける校長。 椅子がきしむ。	校長　「・・・。」 （SE『ギシ』）
C	670	十月十日。 雲がゆっくり流れてゆく。 PAN DOWN。 屋上で歌の練習をしている。 坂本、一人で端の方へ歩き出す。 子供たちはザワザワと乱れる。 いきなりどつき合う男の子もいる。	子供たちの歌声　「あ〜あ〜あ〜あ〜」 坂本　「はい、そこまで。少し休みましょ。」 子供たち　「はーい！（ガヤ）」

C	671	深川をフカンでＰＡＮ。 美しい風景。	坂本　（ＯＦＦ）「私、ここから見える景色が大好きなの」
C	672	風が少しふいている。 風景を眺める坂本。 紙や袖口が揺れる。	
C	673	フカン。 子供たちが坂本の周りに集まってくる。	
C	674	坂本、手摺に少し乗り出し。 坂本を見ている子供達。 「へえ～」という感じで左を見る。	坂本（ＯＮ～ＯＦＦ）「昔はあの工場のあたりまで海だったんだって。」
C	675	海が見える深川の先。 校舎屋上からＰＡＮＤＯＷ。	坂本　「（ＯＦＦ）もっと昔は、この学校の土地も海の中・・・」
C	677	うしろ姿の坂本。 風を受けて髪がなびく。 うしろを振りかえり。	坂本　「今日の練習はもう終わり。」
C	678	喜ぶ子供たち。	子供たち　「やったー。」（などアドリブ）
C	679		子供たち　「わーやったー。」（などアドリブ）
C	681	空（アオリ） ゆっくり流れる雲。	

		坂本	（ＯＦＦ）「みんな、ちょっと先生の話を聞いてほしいの。」
C	682	坂本	（ＯＦＦ）「私、頑張りすぎて―みんなのこと考えてなかった。」
C	683	坂本	「反省してます。」
		坂本	「今日は、私がなぜ学校の先生になったのか、」
		坂本	「音楽に力を入れようとしているのかを話します。」
C	684 A	坂本	（ＯＦＦ）「私には、たったひとりの兄がいたの。７つ違い。」
		坂本	（ＯＦＦ）「とても頭がよくてやさしい兄だった。」
C	684 B	坂本	「兄は、特攻隊で戦死してしまったの。」
C	685		
C	686	坂本	「この手紙は兄が出撃の前に私あてに書き残してくれたものなの。 私だけの宝物なんだけど、読んでみるわね。」

車座になっている子供たちと坂本。（Ｔ・Ｕ）

座っている坂本。

顔を上げて。

子供たちを見回しながら。

（間）

いつもと違う感じの坂本を感じ取ったのか、黙って聞いている子供たち。

坂本、目線を落として、

坂本、ゆっくり顔を上げて

ポケットの寄り。手紙を出す。

手紙を開いて読み始める。

C	687		少し間を置いて、スタート。	坂本から正樹の声へO・L 「理恵子へ。先日、最後の休みがあり、
C	688 A		（O・L） 教会外。 木々の多い森からPAN。 すると教会が見える。	正樹の声　隊の人達とある教会へ行きました。」
C	688 B		礼拝堂内（薄暗く、ステンドグラスから濃い光が入っている）。 牧師が教会の説明をしているのを 3人の若い海軍軍人が聞いている。 （中央が正樹） 牧師がステンドグラスの方を指す。 3人もそちらの方を見る。	正樹の声　「そこではひとりの牧師さんが心をこめて」
C	688 C		ステンドグラスを見る3人。	正樹の声　迎えてくれました。」
C	688 D		アオリ気味でステンドグラス。	正樹の声　「最後に牧師さんは私達に」
C	688 E		正樹の顔。	正樹の声　『皆さん、童謡はお好きですか？』と問い」
C	693		コーヒーカップ。 テーブルに座っている正樹達。	正樹の声　「童謡には日本の言葉と旋律の美しさ、」
C	694		談笑している正樹達と牧師。	

C	A 695	正樹の顔。	正樹の声　「日本人の繊細な感覚や」
C	B 695	笑顔の正樹達３人にＰＡＮ。	正樹の声　「日本人の心そのものがこめられているように思うのです。」
C	C 695	ピアノのＵＰ。 ピアノのふたが開く。	正樹の声　「と言って自分の部屋の小さなピアノを」
C	D1 695	ピアノに向かう牧師とテーブルから牧師を眺める３人。	正樹の声　「弾きながらひとつの童謡を歌ってくれたのです。」
C	D2 695	やさしくうなずく牧師。	
C	E 695	（Ａ・Ｃ） ピアノを弾く牧師の手のひらＵＰ。 曲に合わせて。	（前奏）荒城の月
C	F 695	（Ａ・Ｃ） ピアノを弾く牧師、ＴＵ。	（前奏）荒城の月
C	G 695	聞きいる３人にＰＡＮ。	前奏（荒城の月）
C	H 695	ピアノを弾く牧師の顔。 顔を上げ、歌いはじめる。 Ｔ・Ｕ。	牧師の歌声　（荒城の月）
C	J 695	庭のアヤメが美しく咲いているのが見える。その向こうに海が広が	牧師の歌声　（荒城の月）

	C	695 K	ピアノを弾きながら歌う牧師のアオリ。	る。
	C	695 L	坂を登ってくる4人の男。牧師と正樹達、何やら話しながら歩いている。	牧師の歌声（荒城の月）
	C	695 M	Ｆｏｌｌｏｗ。正樹達は第二種の軍服を着ている。	牧師の歌声（荒城の月）
	C	695 N	庭に4人がやってきて（牧師が花の説明をしている）アヤメの前で立ち止まり、牧師はかがむ。	牧師の歌声（荒城の月）
	C	695 O	アヤメの花をＰＡＮ。	牧師の歌声（荒城の月）
	C	695 P	牧師、説明を終えて、うしろの正樹達に振り向き、「これからお茶でもどうですか？」的なことを言う。	牧師の歌声（荒城の月）
	C	695 Q	正樹達、笑顔になりうなずく。「ハイ、喜んで」みたいな感じ。みんな嬉しそう。	牧師の歌声（荒城の月）
	C	695 R	牧師、立ち上がり「では入りましょう、こちらです」という感じで案内する。（Ｏ・Ｌ）	牧師の歌声（荒城の月）

C	695 S	真剣に聞いている二人。	牧師の歌声　（荒城の月）
C	695 T	歌う牧師の顔。	牧師の歌声　（荒城の月）
C	695 U	正樹。 目線を少し落とし、せつなそうに目を閉じる。	間奏（荒城の月）
C	695 X	夜、線香花火のＵＰ。 ＦＩＸ。	牧師の歌声　（荒城の月）
C	696	夏、庭で花火をする正樹と理恵子。 楽しそうに顔を見合わせたりしている。 カットいっぱい、Ｔ．Ｂ	牧師の歌声　（荒城の月）
C	697	（Ｏ・Ｌ） 自転車のリムのＵＰをＦｏｌｌｏｗ＋Ｔ・Ｂ。	牧師の歌声　（荒城の月）
C	698	自転車のリムで遊んでいる正樹と理恵子。 ＦＯＬＬＯＷ	牧師の歌声　（荒城の月）
C	701	（Ｏ・Ｌ） 日の丸が大写しで振られている。	牧師の歌声　（荒城の月）。

		手前から画面をおおうように日の丸がＩＮ。	
C	702	（Ｏ・Ｌ） 駅のホーム。 列車が止まっている中心に正樹。 子供達が小旗を振っている。 ＰＡＮ。	牧師の歌声 （荒城の月）。
C	703	正樹、家族を見ている。	牧師の歌声 （荒城の月）。
C	704	気丈夫な母と父。 母、小さくうなずく。 妹、悲しくて目をそらす。	牧師の歌声 （荒城の月）。
C	705	そんな妹に気がつき、 妹の側に歩みよる正樹。	牧師の歌声 （荒城の月）。
C	706	正樹と家族。 正樹、少しかがんで妹の肩に手をおき、何かを語りかける。	牧師の歌声 （荒城の月）。
C	707 A	がまんしてうなずく妹。 が、兄の手が離れた時にこらえた涙がこぼれる。Ｔ・Ｕ。	牧師の歌声 （荒城の月）。
C	707 B	正樹、元の場所に歩いて戻り、振り向く。	牧師の歌声 （荒城の月）。

C	707 C	正樹、決意の表情で敬礼をビシッと決める。	牧師の歌声　（荒城の月）。
C	707 D	そんな正樹を見つめる家族。うしろの人々がバンザイしている。	牧師の歌声　（荒城の月）。
C	707 E	正樹の敬礼のアップ。	牧師の歌声　（荒城の月）。
C	707 F	（O・L）家族の写真。皆、幸福そうな表情を浮かべている。	牧師の歌声　（荒城の月）。
C	707 G	（O・L）涙をこらえてうつむく正樹。	牧師の歌声　（荒城の月）。　音楽F.Oぎみ。「いまいずこ～。」
C	709	（O・L）司令官の敬礼の後に4人も敬礼。	牧師の歌声　（荒城の月）。　音楽F.Oぎみ。現場音　SE。
C	710	水杯を飲む。	音楽F.Oぎみ。現場音SE。
C	711	回っているプロペラからT・B。整備員が翼から降り、特攻機動き出す。	現場音SE。
C	712	Follow+SL。	正樹の声　「日本にはこんなに素晴らしい歌があったのに、私たちは歌うことも聴くこともなかった。ずっと戦争だったのです。」
			現場音SE。

		正樹、整備兵に敬礼。 正面を向き、ゴーグルを下げる。	正樹 「私は、牧師の歌を聴いて、僕が何のために死ぬのか―」 現場音ＳＥ。
C	713	フルスロットルをかまし、 砂埃をあげて離陸をはじめる。	正樹 「その意味がわかったように思います。」 現場音ＳＥ。
C	714	帽振っている整備兵たち。	正樹 「日本の子どもたちが十年後二十年後、」 現場音ＳＥ。
C	715	最後の一機が脚を折りたたみながら 上昇して行く。	正樹 「いや、五十年後、百年後にも― 童謡や唱歌を誇りをもって― 歌える国にするために、」 現場音ＳＥ。
C	716	手前の雲のかたまりがＯＵＴすると 正樹たちの編隊が見える。	正樹 「私は命をかけて戦います。」 現場音ＳＥ。
C	717 A	上半身を左右に少しだけ動かし、 目標をさがしている。	正樹 「今の日本ではなく、新しく生まれ変わる日本のために―」 現場音ＳＥ。
C	717		

	B	何かに気がつく。 （体が激しく動く）	正樹 「兄は戦ったのだと思って下さい。」 現場音ＳＥ。
C	718	眼下に米艦隊。	
C	719	振り向き、指で下を指す。 仲間の機体、バングで答える。	正樹 「理恵子は歌が好きだったね。」 現場音ＳＥ。
C	720	次々に急降下して行く。 ラストの一機につけてフォローＰＡＮ	正樹 「大きくなったら是非その才能を活かして下さい。」 現場音ＳＥ。
C	721	激しい対空砲火の中へ突っ込んで行く。	正樹 「できうるなら学校の先生になって、」 現場音ＳＥ。
C	722	機体のまわりでＶＴ信管がパクパク。	現場音ＳＥ。

		ぶれる機体。	正樹「子供たちが―」 現場音ＳＥ。
C	723	ゴーグル越しの表情は見せない。	正樹「日本の素晴らしい歌を歌い続けられるように」 現場音ＳＥ。
C	724	とにかく激しい対空砲火。	正樹「指導してください。」
C	725 A	黒鉛を引きながら奥へ飛んでゆく。 （途中からフォローＰＡＮで）	現場音ＳＥ。
		奥へ、小さくなってゆく。	正樹「君のような妹を持てて兄は幸せでした。」
C	725 B	浜辺に倒れる正樹。奥に機体が見える。 機体から正樹へＰＡＮ+Ｔ・Ｕ。	現場音ＳＥ。
C	725 C	倒れる正樹の顔アップ。	現場音ＳＥ。 （波のＳＥ）
C	726	（Ｏ・Ｌ） 子供たち、悲しそうな表情。 アキラは目に涙を浮かべている。	

C	727	坂本。 ひとしずくの涙が頬を伝う。 T・U。	
C	728	数日後 放課後の学校。 音楽室へT・U。	坂本　（OFF）「大会の曲目、みんな考えてきましたか？」
C	729	音楽室内。 合唱大会のメンバーが集っている。 アキラ、すくっと立ち上がる。 力強く答える。	アキラ　「先生、みんなで相談してんですけど『月の沙漠』を歌いたいと思います」
C	730	坂本、アキラの方を見て、 教室内のメンバーを見渡す。	坂本　「うん、月の沙漠ね。」
C	731	坂本、なめて子供達。 PAN。	
C	732	坂本、顔を正面に戻し、にこやかに。	坂本　「じゃあ『月の沙漠』に決めましょう。」 （間） ピアノは私が弾くとして、指揮はどうする？」
C	733	（アオリ） ひかるが手を上げる。	ひかる　「先生！」
C	734	ひかる立ち上がり。	ひかる　「私にやらせてください。」

C	735	坂本、ひかるの方を見て。	坂本 「ああ、後藤さんやってくれる？」
C	736	ひかる、元気に。	ひかる 「はい！」
C	737	子供達、ひかるの方を見て拍手。	子供達 「よし」 「いいぞ」 「決まった」
C	738	アキラ、手をおろし、先生の方を向き話し始める。	アキラ 「先生の話を聞いた後、みんなで話し合ったんです」
C	739 A	他の子供達、拍手をやめる。アキラの方を見る。	アキラ 「僕らが万引きしたんで大会に出られなくなって」
C	739 B	アキラの顔。 少し目線を落として（トーンダウン）。	アキラ 「みんなに迷惑をかけてしまって、宮永も死んでしまって……」
C	739 C	アキラを見つめる子供達をＰＡＮ。	アキラ 「本当に僕は宮永の分まで」
C	739 D	アキラ、顔を上げる。 うまく言葉にできなくてはがゆい。 （少し間があって）強く。	「一生懸命歌わなきゃいけないって思ったけど、 でもそれだけじゃないってわかったんです。」

C	739 E	坂本、アキラが言いたいこと自体が一瞬理解できない様子。	坂本	「・・・。」
C	739 F	やよい立ち上がって坂本達そっちを見る。	やよい	「私たち、今、平和な時代になって、童謡や唱歌を思いっきり歌えるってすごく幸せなんだなって」（台詞こぼす）
C	739 G	アキラ、やよいの一言で吹っ切れたように。	やよい アキラ	（やよいの台詞こぼし） 「思ったんです。」 「だから僕達、先生のお兄さんみたいに歌うこともできないで死んでいった人たちのことも考えながら、歌おうって決めたんです。」
C	739 H	坂本、感激して。	坂本	「そう、みんなありがとう」
C	739 I	アキラにT・U。	坂本	「とても大切なことを話し合ってくれたんだね。」
C	741	夜の学校。職員室のカーテン越しに明かりがついている。		
C	742	鉄筆で楽譜を書いている坂本の手元。	（SE：カリカリ）	
C	743	鉛筆で楽譜を書いている坂本の顔。	（SE：カリカリ）	
C	744	作業している坂本から、じわT・B。	（SE：カリカリ）	

C	745	数日後の夕方。 学校の横の公園。 木々が紅葉している。 ＰＡＮＤＯＷＮ。 滑り台のところに、ヨシオ、アキラ、テル。 鉄棒のところに、ひかるとヤヨイがいる。	
			ヨシオ（ＯＦＦ～ＯＮ）「ゴンちゃんがいなくなって何か淋しいな。」
			テル「立川って外人ばかりの町なのかな。転校してケンカなんかしてないかな。」
C	746		ヤヨイ「安倍くん、お母さんがいなかったんだよね。よく意地悪されたけど、ちょっと淋しそうなとこあったよ。」
C	747 A	考えているアキラ。 決意をかためたような表情。 頭を上げて。	アキラ「…。…！」 （間） アキラ「あ、あのさ…」
C	747 B	アキラなめ、振り向く。 ひかるとヤヨイがいる。	ひかる「え？なあに？柳沢クン。」
C	747 C	アキラ、キリッとした感じで。	アキラ「僕が校長室へ行ったのは、ゴンが行けって言ってくれたからなんだ。」
C	747 D	ヤヨイ、驚いて。 飛び降りるひかる。	ヤヨイ「えー！？安倍くんがぁ…。」 ひかる「今の話、本当なの？」
C	747 E	テル、ヨシオがいる。 テル、にっこりして。	テル「ああ、オレたちも聞いたよ。」

			テル、振り返って。
C	747 F	アキラなめ、近よる。 ひかるとヤヨイ。	ヨシオ ヤヨイ ひかる
C	747 G	アキラ、ほっとした感じで微笑む。	アキラ
C	747 H	ひかるとヤヨイ。 ヤヨイ、にっこりして、 ひかるを見て。 ひかる、にっこりする。	ヤヨイ ひかる
C	747 I	顔を見合わせてにっこりするテルとヨシオ。	テル ヨシオ
C	747 J	アキラ、ヨシオ、テル、ひかる、ヤヨイ。 カット頭から動き。 すべり台、急降下。 コケるテル。 ヨシオをつぶす。見るアキラたち。 アキラ・ヤヨイ・ひかる、いっせいに笑い出す。	ヨシオ・テル「ゴンちゃーん！」 テル「うわっ！」 ヨシオ「うぐぅ…。」 アキラ「あっ…。」 アキラ・ヤヨイ・ひかる「アハハハハハ…。」

なあ、ヨシオ！」
「うん！」
「そんなことがあったんだ。」
「全然、知らなかったわ。」
「それで、手紙を書いてゴンを合唱大会に誘おうと思ってるんだ。」
「うん、安倍くんを呼ぼう。
ね、ひかる！」
「うん！ようし、私、張り切って指揮をしなきゃ！」
「ゴンちゃんに会えるぜ。」
「会いてぇー！」

C	748	PANUPすると、夕空にハトが飛んで行く。	
C	749	音楽室。 指揮をしているひかる。	（BGM）
C	750	バラバラで、全然ハモっていない。 PAN。	（BGM）
C	751	しかめっ面の坂本。 ダメダメと首を振る。	（BGM）
C	752	かなり上手くなってきている。	（BGM）
C	753	ピアノを弾きながら微笑んでいる坂本。	（BGM）
C	754	夜、柳沢家、外。 T・U。	和子（OFF～ON）「今日、高校へ行くって先生に言ったよ」
C	755	夕食後の居間。 れい子は本を読んでいる。 母は片付けをしている。	和子　「本当にいいの？」 父　「和子は成績がいいんだし、これからは女性も高校どころか大学まで行って才能を伸ばす時代だよ。」
C	756	母、和子の方を見て。 PAN。	母　「電話の件もね、金子工務店からの仕事の分の前借りをしてね、うまくいきそうなのよ。」
		母の方を見ながら、へーッという	和子　「電話、いよいよ入るんだ。ところでアキラは

		感じで。	また歌の練習？」
C	757	母、ちょっと笑いながら。 残念そうに。	母　「最後の追い込みみたい。 （間） 「そういえば、杉浦くんは、合唱の練習をやめたそうだよ。」
C	758	和子、ちょっと驚いて	和子　「え、どうして？」
C	759 A	そう言って、 また片付けの作業に戻る母。 少し残念そうな感じで。	母　「あの子、国立、受験するんだろ…」 母　「合唱の練習しながら受験勉強は大変だろうからねえ…。」
C	759 B	心配そうな和子。 父、少し動く。 父のセリフに反応して父を見る和子。	和子　「アキラ、国立受けないのかなあ。」 父　（ＯＦＦ）「まあアキラにも」
C	759 C	父、コップをとりながら。 最後、コップを口に運ぶ。	父　「アキラの考えがあるんだろう―」 父　「気持ちを変えて頑張ってるみたいじゃないか。俺も電話が入ったらもう少し頑張らなくっちゃな。」

		れい子、本を読みながら足をバタバタさせばがら、	C
		夜の木場。	C
		フカンの町から小学校へPAN、T・U。	C
		フカンの小学校。T・U。	C
		夜。T・U。学校、音楽室だけ明かりがついている。	C
	（O・L）音楽室内。休憩中のメンバー。机は後ろに集めている。騒いでいる子もいる。		C
	男の子、ヤヨイ、ひかる、アキラ、有馬にPAN。		C
和子	（OFF）「ふーん。」		
れい子	「電話がついたら、私が『もしもし。』ってお仕事をたくさんとってやるわ」		
		子供達の歌声	
	（月の砂漠）王子・姫のあたりを歌っている。（上達している）		
	（SE：ガヤ）「オラオラオラ。」「きのう買ったおはじき、きれいなんだよ。」「ちょっとまてよ。」「え？みせてみせて。」	ガヤ ガヤ ガヤ ガヤ	
	『月の沙漠』を歌っていると王子様とお姫様が―」	ヤヨイ	
	「先生のお兄さんと志津みたいに思えてくるよね。」		

			ひかる　「そう、そう。私もそう思う。」 男の子　「ねえ、王子様とお姫様はどこへ行くんだろう。」 有馬　「二人は国を追い出されたのかなぁ。」
C	764	ヤヨイ、ひかる、アキラの横顔。 アキラにT・U。	ヤヨイ　「そうかも知れないけどさ、 きっとまた二人で新しい王国を作るんだよ。」 アキラ　「僕もなんか二人の歩いて行く先には、 永遠の国があるような気がする。」
C	765	（O・L） 別の日。 紅葉している木から音楽室へピン送りすると、練習風景が見える。	（BGM：「月の沙漠」音小さめ。）
C	766	木の根元。 落ち葉がたまっている。 風がふいて落ち葉が宙に舞う。	（SE：風、葉っぱの音）
C	767	音楽室。 練習している子供たちに、じわT・U。	
C	768	十二月。	

		学校、朝、外。 講堂へＴ・Ｕ。	校長　（ＯＦＦ）「今日は日本にとって、とても嬉しい日になりました。」
Ｃ	７６９	講堂の中、壇上で校長が話す。	校長　「日本が国際連合の八十番目の加盟国として認められたんです。」
Ｃ	７７０	壇上の校長。 ＦＩＸ。	校長　「日本もいよいよ世界の国々の仲間入りをするんです。」
Ｃ	７７１	教師の列。 坂本が見える。 ＰＡＮ。	校長　（ＯＦＦ）「日本のことを英語でジャパンといいますね。これからは日本からジャパンの時代になっていくのですね。」
Ｃ	７７２	坂本、寄り。 カットいっぱいじわＴ・Ｕ。	校長　（ＯＦＦ）「私は、ジャパンの時代だからこそ、本当の日本らしさ、日本の文化や伝統を大切にしなければ、と思うのです。」
Ｃ	７７３	アキラたちにＰＡＮ。	校長　（ＯＦＦ）「さて、合唱大会が来週に迫りました。童謡や唱歌は日本の文化です。選ばれた人達は心をひとつにして思い切り歌ってきて下さい。」
Ｃ	７７４	アキラにＴ・Ｕ。	校長　（ＯＦＦ）「三学期のはじめには、この講堂で全校生徒の前で歌ってもらいましょう。」
Ｃ	７７６	公会堂（外）。	
Ｃ	７７８	手前を人が通過する。 人が通り過ぎると、その奥にヨシオとテルが見える。寒そうにしてい	ヨシオ　「ゴンちゃん、遅いね。始まっちゃうよ。」

	C	779	る。 ヨシオとテル。
	C	780	階段上の受付。 人々が入場しようと並んでいる。
	C	781	公会堂の廊下。 出場の子供たちが順番を待っている。 PANT・Uするとアキラ達がいる。
	C	782	ふざけあいながらセリフ。
			間があって坂本が2人に話しかける。
	C	783	アキラ、頷く。 アキラ、ふと横を見て、何かに気が

テル	「立川からは国鉄と都電で来なきゃならないんだ。しょうがないさ。」	
ヨシオ	「あーあ・・・。」	
アキラ	「ハカセ、勉強の方はいいのか？」	
ハカセ	「うん、神田でテストがあったんだけど、母さんに言ってこっちに来たんだ。」	
坂本	「杉浦君も来てくれたし、頑張らなくちゃ、ね。」	
アキラ	「はい！」	

		つく。	
C	784	向こうで挨拶をしている志津の父母と校長。	
C	785	体を起こす志津の母。志津の遺影が見える。	
C	786	はっとするアキラにＴ・Ｕ。	
		真剣な表情になるアキラ。	
C	787	天井のライトが消える。	司会者の声（ＯＦＦ）「大変お待たせいたしました。
C	788	観客席をＰＡＮ。	司会者の声（ＯＦＦ）「只今より、第６回墨東地区合唱大会を始めます。」
C	789	ステージの上。ピアノ、指揮者、生徒達、司会者。	司会者（ＯＮ～ＯＦＦ）「今年は昨年より４校増えて１７校となりました。 まず１番目は本山小学校のみなさんです。曲目は『赤トンボ』
C	790	ピアノの先生がお辞儀をする。	司会者（ＯＦＦ）ピアノは、本橋君子先生、」
C	791	生徒と指揮の先生。 先生、お辞儀をする。 戻って前奏が始まる。 生徒の方を向き、両手を上げて指揮	司会者（ＯＦＦ）「指揮は浅原美絵先生です。」

			を始める先生。 歌「赤トンボ」が始まる。
C	792 A		ピアノを弾き始める先生。
C	792 B		壇上でピアノを弾く先生と スタンバイする子供達。
C	793		歌いはじめる子供達。
C	794		歌っている子供達４人の顔に ＰＡＮ。
C	795	（Ｏ・Ｌ） 夕焼けの山村の風景。 男の子をおんぶしている母、 隣に４～５歳の姉。 高台の小さな道を散歩している。 赤トンボが１０数匹飛んでいる。	
C	796	母と子供達。 桑の木に桑のみがなっている。 子供がずりさがったので立ち止まり、（トンボがとんでいる） もう一度おぶり直す。 姉、トンボに気がつき目で追う。	

	赤トンボ前奏。		
	赤トンボ前奏。		
	生徒達の歌声　（赤トンボ）。		
	生徒達の歌声　（赤トンボ）。		
	生徒達の歌声　（赤トンボ）。	生徒達の歌声　（赤トンボ）。	

C	C	C	C
797	798	799	800
BG望遠気味に。 トンボがINしてきて、 弟の頭の上に止まる。 母、それを見て笑う。	姉、弟の頭の上のトンボを見ている。（トンボUP、T・U） トンボ、もぞもぞ動いている。 カット尻、トンボが飛び去ってしまう。 姉、「あ！」とトンボを目で追う。	夕空。 ゆっくりとFollowしているところに1匹の赤トンボが　FrIN。 しばらく中央でFollowした後に上昇。 それに合わせてPAN・UP。 すると、赤トンボの群れが見える。 （アオリ）	（O・L） 夏、日中。 軒先の風鈴が風に揺れる。
生徒達の歌声　（赤トンボ）。	生徒達の歌声　（赤トンボ）。	生徒達の歌声　（赤トンボ）。	生徒達の歌声　（赤トンボ）。 （SE・チリリ～ン）

		PAN・DOWN。 弟と姉がスイカを楽しそうに食べている。その傍らに母。 弟、がぶりとスイカにかぶりつく。	
C	801	（O・L） 家の中。 白無垢をきた姉。 父母に礼を言っている。 （スタート・上段にピン送り） （ピン送り下段へ） 弟がふすまからのぞき込み、せつない表情をしている。	生徒達の歌声　（赤トンボ）。
C	802	外、家の前。 馬に乗り嫁入りする姉。 （ちゃぐちゃぐ馬っ子みたいに） 姉一行が進み始める。	生徒達の歌声　（赤トンボ）。
C	803	いわし雲が出ている。 馬を引かれ出てゆく姉。 小さく母に会釈する。	生徒達の歌声　（赤トンボ）。
C	804	弟、せつなそうに姉を見つめているが、耐えられなくなり目をそらす。	生徒達の歌声　（赤トンボ）。
C	805	10年後。	

	A	青空が結構残っている夕方。 土手にコスモスが咲いている。 土手の上にはシルエットの大きくなった弟が空を見上げている。 さわやかな風が吹き、 土手の草がさーっとなびくと共に、 ＰＡＮ・ＵＰすると茜雲に赤トンボの群が飛んでいる。	
C	805 B	赤トンボがＦｒ・ＩＮしてきて。 棒の先にとまる。	生徒達の歌声　（赤トンボ）。
C	805 C	（Ｏ・Ｌ） ものすごく美しい夕方の風景。 ＢＧｏｎｌｙ（赤トンボはなし） カットいっぱいＰＡＮ。	生徒達の歌声　（赤トンボ）。
C	805 D	（Ｏ・Ｌ） ステージ全景、Ｔ・Ｂ。	生徒達の歌声　（赤トンボ）。
C	805 E	観客席、大きな拍手。 ＰＡＮ。	
C	805 M	同時刻、柳沢家の外観。	
C	806	壁からコードを出している電電公社の工事の人の手。	

C	807	工事の人、廊下の小さな机を指して。	工事の人　「電話機はこの机の上ですかね？」
C	A 808	父、頷きながら。	父　「そうです、そこにお願いします。」
C	B 808	※最終コンテのあと追加 立川、米軍基地。	
C	C 808	※最終コンテのあと追加。 飛行場の柵から基地内を眺める人々。 柵には、「米軍基地拡張反対」の看板。	
C	809	立川の町。 路地の飲み屋街（きたない感じ）。 ＰＡＮすると、店の前でゴンが掃除しているのが見える。	
C	810	ゴン、道に落ちている吸殻等を、 ちりとりの中に入れている。 ちりとりを持ち上げて、 ゴミ箱のある方へ置いていく。	

C	811	路地のゴミ箱。 ちりとりがＦｒＩＮしてゴミを捨てる。	
C	812	体をおこし汗を拭く、ゴン。 ゴン、歩き出す。	ゴン　「ふうー。」
C	813	ズボンのポケットの寄り、 手紙がはみ出ている。 Ｆｏｌｌｏｗ。 歩くのにつれてポケットから 落ちてしまう。	
C	814	手紙が地面に落ちる。	（ＳＥ：カサ）
C	816	落とした手紙に気付くゴン。 立ち止まり、振り向く。	ゴン　「あ！」
C	817	あわてて手紙を拾いに駆け込み、 大事そうにゴミをはらい、 中から手紙を出し、広げるゴン。	
C	818	手紙をＰＡＮ。 手紙の上にクラスの仲間たちの顔が 浮かぶ。	アキラ　（Ｎ）「ゴンちゃん、合唱大会の予定を送ります。木場小は特別参加ということで『月の沙漠』となりました。」

C	819	手紙を読むゴンの顔。 手紙を下ろして決意する。 駆け出すゴン。	アキラ　（N）「みんなで待っているので、是非来て下さい。」
C	820	店内に入ってくるゴン。 曲がってフレームアウト。	
C	825	店の小銭入れの引出しを引くゴンの手。（FrIN） 小銭をつかむ。	
C	826	父の声に立ち止まり、振り返るゴン。	ゴン父　「権治！」
C	827	店の奥から父の声。 T・B	ゴン父（OFF）「父ちゃん仕入れで出かけるから、留守番たのむぞ。」
C	828	父の声の方を見つめるゴン。 （間） 意を決したように走り出る。	ゴン父（OFF）「権治！」
C	829	立川の駅前。	（BGM：町に流れるジャズっぽい音楽）

		派手な米兵目当ての店の看板。	
C	830	駅前の繁華街。	（BGM：町に流れる）
C	831	人ごみの中歩いてきたゴン、声に反応する。	（BGM：町に流れるジャズっぽい音楽） 女　「キャハハハハ！」
C	835	人ごみの中を足早に走ってゆくゴン。	（BGM：ジャズっぽい音楽）
C	836	（O・L） 立川駅改札。 出口からどんどん人が出てくる。	（SE：アナウンス）
C	837	立川駅外。 たたずむゴンの後姿。	
C	838	立川駅前に佇むゴン。	
C	839	ポケットから小銭を取り出すゴン。	
C	840	手を開くと小銭が見える。	
C	841	ぐっとその手を握り、 来た道を引き返すゴン。	
C	842	人ごみの中、肩を落とし家へ帰るゴン。 カットいっぱいT・B。	

C	843	柳沢家（廊下）。 工事の人が体を起こして。	工事の人	「ちょっと待ってください。」
C	844	嬉しそうに聞いている父。	工事の人（OFF）	「今、営業所の方から確認の電話が掛かってきます。」
C	845	電話機。 T・B。 電話が掛かってくる。		（SE：電話の音「リリーンリリーン」）
C	846	父ナメ工事の人。	工事の人	「ハイハイ。」
		工事の人が電話に出る。	工事の人	「あ。――ハイ。わかりました。」
C	847	うんうんと頷く父にT・U。	工事の人（OFF）	「はい。――はい。」
			工事の人（OFF）	「これで大丈夫です。」
C	848	合唱大会会場。 観客席。		
C	849	ステージ。 次の学校の生徒たちがスタンバイしている。 司会者へPAN。	司会者（OFF～ON）	「各校とも素晴らしい出来栄えですね。 さて、今度は門仲小学校の皆さんです。」
C	850	司会者の寄り。	司会者	「門仲小学校は昨年の優勝校ですね。今年の曲目は『ふるさと』。 ピアノは大庭みな子先生、指揮は前田香代先生

			です。」
	C	851	前奏。 指揮棒をあげる。 PAN。	司会者 「それではどうぞ。」
	C	852	歌い始める生徒たち。 PAN。	生徒達の歌声　（『ふるさと』）。
	C	853	指揮をする先生。	生徒達の歌声　（『ふるさと』）。
	C	854	生徒達の寄り、PAN。	生徒達の歌声　（『ふるさと』）。
	C	855	ピアノの先生。	生徒達の歌声　（『ふるさと』）。
	C	856	聞いている観客席の人々をPAN。	生徒達の歌声　（『ふるさと』）。
	C	857	合唱する子供達。 カットいっぱい、少しPAN。	生徒達の歌声　（『ふるさと』）。
	C	858	（O・L） 前列中央の女の子のひとりが 独唱している。T・U	生徒達の歌声　（『ふるさと』）。
	C	859	独唱している女の子にFIX。	生徒達の歌声　（『ふるさと』）。
	C	860	春の山村、里山。 山桜がピンクに山を染めている。 たんぼにはレンゲが一面に咲いて	生徒達の歌声　（『ふるさと』）。

		いる。 PANDOWN。	
C	861	（O・L） 春の山村風景。	生徒達の歌声（『ふるさと』）。
C	862 A	（O・L） 小川。 桜の木と青空が水面に映る。 水中を2匹の小魚がゆっくりと泳いでいる。	生徒達の歌声（『ふるさと』）。
C	862 B	初夏。 田植え前の村の全景。	生徒達の歌声（『ふるさと』）。
C	862 C	田植えの風景。	生徒達の歌声（『ふるさと』）。
C	862 D	夏。 PANDOWNすると、畑のソバの白い花が見える。 ハチが数匹、花から花へ飛んでいる。	生徒達の歌声（『ふるさと』）。
C	862 E	（O・L） 夏。 川のほとり、アヤメの花が鮮やかに咲いている。	生徒達の歌声（『ふるさと』）。
C	862	（O・L）	生徒達の歌声（『ふるさと』）。

	F	夏の川、夕方。 投網を投げている川漁師達。	
C	862 G	（O・L） 秋、たんぼは黄金色。 農家の庭先に人々が集まって 雑談している。 むしろの上に何かを干している。 道を3人の子供がかけてゆく。 先頭の子は虫取りアミを持っている。	生徒達の歌声　（『ふるさと』）。
C	862 H	（O・L） 秋、紅葉の林。	生徒達の歌声　（『ふるさと』）。
C	862 I	（O・L） 秋、夕方。 家の風呂の煙突から煙が出ている。 木々は紅葉、裏庭に彼岸花が 赤く咲いている。	生徒達の歌声　（『ふるさと』）。
C	862 J	（O・L） 初冬。 雪の振りそうな日中、 老人がわらの束を作っている。 PAN。	生徒達の歌声　（『ふるさと』）。

C	862 K	（O・L） 冬 雪がシンシンと降っている。 窓から明かりが漏れている。	生徒達の歌声　（『ふるさと』）。	
C	862 L	（O・L） 雪の降り止んだ村の風景。 春、一面雪の山の上に鹿がいる。 地面にところどころ草木が見えている。 鹿が草を食べていると、何かの気配に気が付いてパッと顔を上げる。 あたりをうかがうような感じ。。	生徒達の歌声　（『ふるさと』）。	
C	862 M	（O・L） 雪原。雪はやんでいる 雪の中から草が出てくる。 草にT・U。	生徒達の歌声　（『ふるさと』）。	
C	862 N	（O・L） ステージ。 演奏終了、T・B。 指揮の先生が礼をし、正面を向く。	会場、拍手。	
C	863	舞台ソデ。 歌い終えた生徒たちが出てくる。	生徒たち　「やったな。」	

		フォローＳＴＯＰして生徒達ＯＵＴ。 すると、その奥にこれから出場する学校の生徒たちが見える。（ザワついている）	生徒たち 生徒たち 女の子	「うまくいった。」 「今年も優勝だ。」（などアドリブ） 「はあ。」
C	864	司会者ＵＰ。	司会者	「はい、それではまた実力校の登場です。一昨年の優勝校の新町小学校の皆さんです。」
C	865	ステージ既にスタンバイＯＫ。 生徒と指揮者は正面を向いている。 前奏が始まる。 指揮者、生徒の方に向いて指揮を始める。	司会者	「曲名は『浜辺の歌』。ピアノは影山知子先生、指揮は本宮善行先生です。」
C	866	生徒の後姿ナメて観客席ＰＡＮ。		『浜辺の歌』前奏。
C	867	前奏を終えて歌い始める生徒達。 カットいっぱい、Ｔ・Ｂ。	生徒の歌声	（『浜辺の歌』）
C	868 A	自信に満ちて歌っている生徒達。 ＰＡＮ。	生徒の歌声	（『浜辺の歌』）
C	868 B	（Ｏ・Ｌ） 聞いている客席の人々をＰＡＮ。	生徒の歌声	（『浜辺の歌』）
C	868 C	（Ｏ・Ｌ） 朝		

		昭和３０年代の浜辺。	生徒の歌声（『浜辺の歌』）
C	869 A	海がキラキラして逆光気味。老人と女の子が砂浜を散歩している。女の子が走り出し、止まって振り向き老人を呼ぶ。老人、女の子の方へ歩き出す。	生徒の歌声（『浜辺の歌』）
C	869 B	（O・L）老人が女の子のところまで歩いてくる。風が吹いて、スカートのすそと髪の毛が揺れる。	生徒の歌声（『浜辺の歌』）
C	870	（O・L）昼、波打ち際。小さな貝殻が波にもて遊ばれている。貝殻が波にのまれ、見えなくなる。	生徒の歌声（『浜辺の歌』）
C	871 A	（O・L）砂浜。貝殻寄り、T・B。	生徒の歌声（『浜辺の歌』）
C	871 B	（O・L）月夜の海。	生徒の歌声（『浜辺の歌』）
C	871 C	（O・L）海面に月が映り込んでいる。T・U。	生徒の歌声（『浜辺の歌』）

C	872	（O・L） 夜の浜辺、ＰＡＮすると若い男女の。シルエットが見える。	生徒の歌声　（『浜辺の歌』）
C	873	（O・L） 夜、灯台の明かりが岬の上に見える。	生徒の歌声　（『浜辺の歌』）
C	874	（O・L） 夜、砂浜の足跡。 波がサーっと入ってきて、 足跡を消してしまう。 波が引くと、砂と貝殻だけが残り、 また波が入ってくる。	生徒の歌声　（『浜辺の歌』）
C	875	（O・L） 夜、月明かり 浜辺に打ち捨てられた漁船	生徒の歌声　（『浜辺の歌』）
C	876 A	（O・L） 波が岸に打ち寄せては消えてゆく。 空には星のまたたきと月。	生徒の歌声　（『浜辺の歌』）
C	876 C	（O・L） ステージの上の生徒達。 歌い終えて正面を見ている。 教壇の先生はピアノのほうを	生徒の歌声　（『浜辺の歌』）

		指揮している。T・B。 指揮者、手をおろす。	
C	877	観客席。会場全体をPAN。 拍手をする人々。	（SE：拍手『パチパチパチパチ』）
C	878A	司会者マイクのところにフレーム イン。	司会者　「ハイ、どうもありがとうございました。」
C	880	日中。ゴンの店、酒の店あべちゃん。	ごんの口笛　（『月の沙漠』）
C	881	ビン越しに働くゴン。 口笛吹きながら、ビンを集めている。	口笛『月の沙漠』
C	884	ゴンが手前に箱を運んできて下に置く。 （奥が入り口）	口笛　『月の沙漠』
C	885	公会堂外観。	（SE：拍手『パチパチパチパチ』）
C	886	ステージ上の司会者。	司会者　「以上で十七校すべてが終了しました。」 司会者　「最後に特別参加の木場小学校の皆さんに歌っていただきましょう。」
C	887	ステージに木場小の生徒たちが入ってくる。 最後に坂本先生が入ってくる。	
C	888	アキラたち、台に上がる。	

		並び終わる。	
C	889	坂本がピアノの席につく。 座る。	
C	890	司会者	司会者　「木場小は、今年はいろんな問題があって―」
C	891	子供達の中に志津の遺影を持っている 有馬君代がいる。	司会者（OFF）「一時は出場が見送られたのですが、 こうして元気に参加してくれました。」
C	892	有馬の持っている遺影にT・U。	司会者（OFF）「曲名は『月の沙漠』。代表で歌うことになっていた―」
C	893	志津の遺影の寄り。	司会者（OFF）「宮永志津さんが、この夏に海の事故で なくなられた―」（こぼし）
C	894 A	観客席に志津の両親の姿が見える。	（こぼし） 司会者（OFF）「―そうですが、その宮永さんへの思いを込めて」
C	894 B	観客席のアキラの母とれい子。 れい子、兄を見つけて乗り出す。	司会者（OFF）「曲を歌っていただきます。」
C	894 C	観客席の校長と滝井。	
C	895 A	ピアノに向かう坂本。 軽く会釈する。	司会者（OFF）「ピアノは坂本理恵子先生―」

	C	895 B	ひかるも、会釈する。
	C	895 C	司会者。 後ろ歩きで退場。
	C	896	坂本、ひかるの方を見る。
	C	897	壇上で身構える子供達。
	C	898	指揮棒を上げる後藤ひかる。 指揮を始める。
	C	899	有馬君代の独唱にT・U。
	C	900	有馬の顔UP、じわPAN。
	C	901	観客席、聞いている客をPAN。
	C	902	有馬君代の独唱が終わり、 ユニゾン開始。
	C	903	歌う生徒達。PAN。
	C	904	歌う生徒達と指揮者。
	C	905	アキラの顔。

	司会者（OFF）「指揮者は宮永さんと同じクラスの後藤ひかるさんです―」	
	司会者　「それでは、お願いします。」	
	有馬の歌声　「月の沙漠を」	
	有馬の歌声　『月の沙漠』	
	有馬の歌声　『月の沙漠』	
	生徒達の歌声　『月の沙漠』	
	生徒達の歌声　『月の沙漠』	
	生徒達の歌声　『月の沙漠』	
	生徒達の歌声　『月の沙漠』	

C	906	ピアノを弾く坂本と歌う生徒達。 PAN。 2部に分かれてハモる。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	907	ピアノを弾く坂本。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	908	合唱している生徒の頭をナメて、 ひかるが指揮をしている。PAN。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	909	フカンの会場。 カットいっぱいT・B。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	A 910	観客席のハカセ、テル、ヨシオを PAN。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	B 910	観客席のアキラの母とれい子。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	C 910	志津の母、見ている。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	911	生徒達のユニゾン。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	A 912	ピアノを弾く坂本先生の手のUP。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	B 912	聞いている客席をPAN。	（間奏）オーケストラに入っていく。
C	C 912	客席の志津の母と父。	（間奏）

C	912 D	志津の母。 有馬と志津をオーバーラップさせてしまい、涙ぐむ。	（間奏）
C	912 E	有馬君代にT・U。 有馬と志津がカット内O・L。	（間奏）
C	912 F	目を見開く志津の母。	（間奏）
C	912 G	有馬と志津のO・Lがここで完全に志津になる。	（間奏）
C	912 H	志津（有馬）、顔を上げ、歌い始める。 カメラゆっくり引く。 風がサーっと吹きゆっくり髪がなびく。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	912 I	（O・L） 志津がゆっくり歩いていく。 Ｆｏｌｌｏｗ＋Ｔ・Ｕ。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	913	ここからイメージの砂漠の世界。 夜、月光色。 砂漠を歩くシルエットのラクダに乗った男女。	生徒達の歌声　『月の沙漠』

C		914	後ろのラクダには志津が乗っている。（歌っていない） ＰＡＮすると軍服を着た青年が見える。 Ｆｏｌｌｏｗ。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	B	914	その青年の後姿。 Ｆｏｌｌｏｗ。 振り向くと、正樹であることがわかる。 （なぜかほほえみ）	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C		915	志津もかわいくにっこりと微笑む。 Ｆｏｌｌｏｗ。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C		916	砂漠を進む二人とラクダ。 Ｆｏｌｌｏｗ。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	A	917	砂漠の山の向こうから見えてくる正樹と志津とラクダ Ｆｏｌｌｏｗ。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	B	917	フカンの砂漠。 月光を受けて青く美しい砂の海。 その中を歩くラクダと２人。ＰＡＮ。	生徒達の歌声　『月の沙漠』

C	918	砂にきれいな模様ができている。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	919	砂漠を歩く２人とラクダのシルエット。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	920	ＢＧ（月光色→薄紫色へ） 砂丘にきれいな縞模様が入っている。 その稜線の上を正樹達がラクダに乗り歩いている。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	921	望遠Ｆｏｌｌｏｗ。 月の前を２人が進むシルエット。 少しだけいっぱいＰＡＮ。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	922	手前に歩いてくる。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	923	夜明け前。 砂丘を登っている２頭のラクダ。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	924 A	ＰＡＮ・ＵＰ。 夜明け前で東がうっすら赤く染まっている。	生徒達の歌声　『月の沙漠』
C	924 B	東の空、夜明け直前に奥へ進む２人。 次第に赤く染まっていく。 太陽が昇りだす。 シルエット、その中にラクダが消え	生徒達の歌声　『月の沙漠』

			る。 光がゆっくり大きくなって行く。
C	925 A	生徒達の頭越しに指揮者と観客席。	
C	925 B	会場からいっせいに拍手。	（SE：拍手の音）
C	926 A	ステージの子供達。 ひかる、正面を向いている。	（SE：拍手の音）
C	926 B	涙を拭う志津の母。	（SE：拍手の音）
C	926 C	校長と滝井、満足そうに拍手。	（SE：拍手の音）
C	926 D	客席のハカセ・テル。ヨシオをPAN。	（SE：拍手の音）
C	926 E	アキラの母とれい子も拍手。 母はアキラに小さく頷く。 （『良くやったわね』みたいな感じ）	（SE：拍手の音）
C	926 F	全員おじぎ。	（SE：拍手の音）
C	928	会場をPAN。拍手。	（SE：拍手）
C	935	アキラ満足気。	（SE：拍手）
		アキラ前方の何かに気がつく。	アキラ　「！！」

C	936	出入り口にT・U。 シルエットで良く見えないが ゴンのようなシルエットが見える。		（SE：拍手）
C	938	ゴンのような少年がいるのが見える。		（SE：拍手）
C	939	驚くアキラ。	アキラ 「ゴン！」	（SE：拍手）
C	940	廊下に走るアキラ。 Ｆｏｌｌｏｗ。		
C	941	手前人物密着ＳＬ。		
C	942 A	ロビーを出てくるアキラ。 受付のところで走ってきて。	アキラ 「今さっき、男の子が出て行きませんでしたか？」	
C	942 B	アキラ、ナメ、受付の人。	受付の人 「どなたも出ていってませんよ。」	
C		アキラ、体を起こし呆然とし、うつむく。 （間） 走り出す。	アキラ 「え…。」	
C	943	外。出口から走り出してくるアキ		

			ラ。 階段をおりる。 ＰＡＮ。 手前へと走ってくる。 立ち止まり、ゴンの姿を探す。
C	945		公会堂の前庭、誰もいない。 空はどんよりした雲。
C	946		じっと前を見るアキラ。 ＩＮする坂本。 ハッとするアキラ。
C	947 A	アキラ 坂本（ＯＦＦ～ＯＮ） アキラ	「ゴン…。」 「どうしたの、柳沢君。」 「！」
C	947 B	アキラ 坂本	「先生、さっきゴンの姿が見えたんです・・・」 「え？安倍くんが？」
C	947 C		驚く坂本。 周囲を見る。
C	947 D		公会堂の前庭。
C	947	生徒達 生徒達 生徒達 坂本	前を見ているアキラと坂本。 そこへ、他の生徒達が走ってくる。 そちらを見るアキラと坂本。 生徒達、坂本を囲む。

C	947 E	坂本と生徒達。	ヤヨイ　「先生、どうしたの？」
C	947 F	坂本、ヤヨイの方を向いて。	坂本　「柳沢君が、安倍君を見たんだって。」
C	947 G	皆、アキラの方を見る。	テル　「えー？ゴンちゃんはこなかったぜ。」
C	947 H	子供達、坂本を見る。 全員、笑顔での会話。	アキラ（OFF）「ドアの所に見えたんだ。」 ひかる（OFF）「思い過ごしよ～。」 ヨシオ（OFF）「ゴンちゃんが隠れてるわけないよ～。」 君代（OFF）「そうだよねぇ。」
C	947 I	坂本（間があって）、笑顔で。	坂本　「みんなの心がひとつになったよね。…」
C	948	満足げに頷く子供達、笑顔で。	坂本（OFF）「みんなの歌声がきっと安倍君にも届いたのよ。」 子供達　「うん。」
C	949 A	アオリの空。	ひかる（OFF）「志津の魂にもきっと届いたよね。」
C	949 B	坂本の顔。	坂本　「ええ、きっと。」
C	950	坂本を見ている子供達。 空から雪がひとひら落ちてくる。 上を見るアキラ。	エンディングBGM アキラ　「あっ！！」

C	951	アオリ、空。 雪が降ってくる。	エンディングＢＧＭ
C	952	見上げる子供達。 笑顔になる。 雪が降ってくる。	エンディングＢＧＭ 子供達　「うわーっ、雪だ！」等、アドリブ。 子供達　「きれい。」
C	953	坂本も笑顔になる。	エンディングＢＧＭ（強く）
C	954	アオリ、アキラのＰＡＮ。	エンディングＢＧＭ アキラ　「先生、先生のお兄さんの魂にもきっと届いよね…。」
C	956	アオリ、空。 次第に雪が多くなっていく。	
C	958	フカンの坂本と生徒達。 ゆっくりとカメラが上昇していく。 公会堂の上空、街並みが広がる。 ＥＮＤ	